

SP-404

取扱説明書

このたびは、ローランド・サンプラー SP-404 をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
この機器を正しくお使いいただくために、ご使用前に「安全上のご注意」(P.2、3)と「使用上のご注意」
(P.4、5)をよくお読みください。また、この機器の優れた機能を十分ご理解いただくためにも、取扱説明書を
よくお読みください。取扱説明書は必要ときにすぐに見ることができるよう、手元に置いてください。

主な特長

簡単&スピーディーなサンプリング機能

ライン入力、外部マイク入力または内蔵マイクを使って、簡単操作でサンプリングが可能。電池でも駆動できるので、思い付いたときに即サンプリングできます。

高品位なエフェクトを搭載

FILTER や LO-FI、ISOLATOR などの定番エフェクトはもちろんのこと、SUBSONIC や DJFX LOOPER などユニークなものまで幅広く網羅した 29 種類の DSP エフェクトを搭載しています。

リアルタイム・パフォーマンスに最適

ラパータッチの 3 つのツマミ、12 個のパッドに加えて、直前に叩いたパッドを記憶し同じサンプルを演奏できる SUB PAD を搭載。リアルタイム・パフォーマンスで、より自由な演奏表現が可能です。

パターン・シーケンサー搭載

パッドの演奏をリアルタイムに記録し再生するパターン・シーケンサーを搭載。もちろんクオンタイズも可能なので、すばやく簡単に演奏を記録し再生することが可能です。

大容量メモリー・カード（コンパクトフラッシュ）に対応

最大 1GB のコンパクトフラッシュに対応。STANDARD モードで最大 386 分、LO-FI モードで最大 772 分のサンプリングが可能です。コンパクトフラッシュ経由で WAV/AIFF ファイルのインポート/エクスポートにも対応します。

文中の表記について

操作ボタンは、[REC] のように [] で囲んで表記します。

(P.**) は参照ページを表しています。



マークは以下のとおりです。

- ご注意!** 注意文です。必ずお読みください。
- メモ** 設定や機能のメモ情報です。必要に応じてお読みください。
- ヒント** 操作のヒント情報です。必要に応じてお読みください。
- 参照** 参照情報です。必要に応じてお読みください。
- 用語** 用語説明です。必要に応じてお読みください。




安全上のご注意

火災・感電・傷害を防止するには

⚠ 警告と ⚠ 注意の意味について

 警告	取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を表わしています。
 注意	取扱いを誤った場合に、使用者が傷害を負う危険が想定される場合および物的損害のみの発生が想定される内容を表わしています。 ※物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットにかかわる拡大損害を表わしています。

図記号の例

	△は、注意（危険、警告を含む）を表わしています。 具体的な注意内容は、△の中に描かれています。左図の場合は、「一般的な注意、警告、危険」を表わしています。
	⊘は、禁止（してはいけないこと）を表わしています。 具体的な禁止内容は、⊘の中に描かれています。左図の場合は、「分解禁止」を表わしています。
	●は、強制（必ずすること）を表わしています。 具体的な強制内容は、●の中に描かれています。左図の場合は、「電源プラグをコンセントから抜くこと」を表わしています。

----- 以下の指示を必ず守ってください -----

警告

- この機器を使用する前に、以下の指示と取扱説明書をよく読んでください。



- この機器および AC アダプターを分解したり、改造したりしないでください。



- 修理／部品の交換などで、取扱説明書に書かれていないことは、絶対にしないでください。必ずお買い上げ店またはローランド・サービスに相談してください。



- 次のような場所での使用や保存はしないでください。



- 温度が極端に高い場所（直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など）
- 水気の近く（風呂場、洗面台、濡れた床など）や湿度の高い場所
- 雨に濡れる場所
- ホコリの多い場所
- 振動の多い場所



- この機器を、ぐらつく台の上や傾いた場所に設置しないでください。必ず安定した水平な場所に設置してください。



- AC アダプターは、必ず付属のものを、AC100V の電源で使用してください。



警告

- 電源コードは、必ず付属のものを使用してください。また、付属の電源コードを他の製品に使用しないでください。



- 電源コードを無理に曲げたり、電源コードの上に重いものを載せたりしないでください。電源コードに傷がつき、ショートや断線の結果、火災や感電の恐れがあります。



- この機器を単独で、あるいはヘッドホン、アンプ、スピーカーと組み合わせて使用した場合、設定によっては永久的な難聴になる程度の音量になります。大音量で、長時間使用しないでください。万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、直ちに使用をやめて専門の医師に相談してください。



- この機器に、異物（燃えやすいもの、硬貨、針金など）や液体（水、ジュースなど）を絶対に入れないでください。



⚠ 警告

- 次のような場合は、直ちに電源を切って AC アダプターをコンセントから外し、お買い上げ店またはローランド・サービスに修理を依頼してください。⚠

- AC アダプター本体、電源コード、またはプラグが破損したとき
- 煙が出たり、異臭がしたとき
- 異物が内部に入ったり、液体がこぼれたりしたとき
- 機器が（雨などで）濡れたとき
- 機器に異常や故障が生じたとき

- お子様のいるご家庭で使用する場合、お子様の取り扱いやいたずらに注意してください。必ず大人のかたが、監視／指導してあげてください。⚠

- この機器を落としたり、この機器に強い衝撃を与えないでください。⊘

- 電源は、タコ足配線などの無理な配線をしないでください。特に、電源タップを使用している場合、電源タップの容量（ワット／アンペア）を超えると発熱し、コードの被覆が溶けることがあります。⊘

- 外国で使用する場合は、お買い上げ店またはローランド・サービスに相談してください。⚠

- 電池は、充電、加熱、分解したり、または火や水の中に入れてたりしないでください。⊘



⚠ 注意

- この機器と AC アダプターは、風通しのよい、正常な通気が保たれている場所に設置して、使用してください。⚠

- AC アダプターを機器本体やコンセントに抜き差しするときは、必ずプラグを持ってください。⚠

- 定期的に AC アダプターを抜き、乾いた布でプラグ部分のゴミやほこりを拭き取ってください。また、長時間使用しないときは、AC アダプターをコンセントから外してください。AC アダプターとコンセントの間にゴミやほこりがたまると、絶縁不良を起こして火災の原因になります。⚠

⚠ 注意

- 接続したコードやケーブル類は、繁雑にならないように配慮してください。特に、コードやケーブル類は、お子様の手が届かないように配慮してください。⚠

- この機器の上に乗ったり、機器の上に重いものを置かないでください。⊘

- 濡れた手で AC アダプターのプラグを持って、機器本体やコンセントに抜き差ししないでください。⊘

- この機器を移動するときは、AC アダプターをコンセントから外し、外部機器との接続を外してください。⚠

- お手入れをするときには、電源を切って AC アダプターをコンセントから外してください（P.10）。⚠

- 落雷の恐れがあるときは、早めに AC アダプターをコンセントから外してください。⚠

- 電池の使いかたを間違えると、破裂したり、液漏れしたりします。次のことに注意してください（P.10）。⚠

- 電池の+と-を間違えないように、指示どおり入れてください。⊘

- 新しい電池と一度使用した電池や、違う種類の電池を混ぜて使用しないでください。⚠

- 長時間使用しないときは、電池を取り出しておいてください。⚠

- 液漏れを起こした場合は、柔らかい布で電池ケースについた液をよくふきとってから新しい電池を入れてください。また、漏れた液が身体についた場合は、皮膚に炎症を起こす恐れがあります。また眼に入ると危険ですのですぐに水でよく洗い流してください。

- 電池を、金属性のボールペン、ネックレス、ヘアピンなどと一緒に携帯したり、保管したりしないでください。

- 使用済みの電池は、各市町村のゴミ分別収集のしかたに従って、捨ててください。⚠

- 取り外した CARD LOCK 用ネジや接地端子のネジ、付属のメモリー・カード・カバーは、小さなお子様が誤って飲み込んだりすることのないようお子様の手の届かないところへ保管してください。⚠

使用上のご注意

2、3 ページに記載されている「安全上のご注意」以外に、次のことに注意してください。

電源、電池のセットや交換について

- 本機を冷蔵庫、洗濯機、電子レンジ、エアコンなどのインバーター制御の製品やモーターを使った電気製品が接続されているコンセントと同じコンセントに接続しないでください。電気製品の使用状況によっては、電源ノイズにより本機が誤動作したり、雑音が発生する恐れがあります。電源コンセントを分けることが難しい場合は、電源ノイズ・フィルターを取り付けてください。
- AC アダプターを長時間使用すると AC アダプター本体が多少発熱しますが、故障ではありません。
- この機器は消費電流が大きいので、AC アダプターの使用をお勧めします。電池で使用する場合はアルカリ電池を使用してください。
- 電池のセットや交換は、誤動作やスピーカーなどの破損を防ぐため、他の機器と接続する前にこの機器の電源を切った状態で行なってください。
- 接続するときは、誤動作やスピーカーなどの破損を防ぐため、必ずすべての機器の電源を切ってください。

設置について

- この機器の近くにパワー・アンプなどの大型トランスを持つ機器があると、ハム（うなり）を誘導することがあります。この場合は、この機器との間隔や方向を変えてください。
- テレビやラジオの近くでこの機器を動作させると、テレビ画面に色ムラが出たり、ラジオから雑音が出ることがあります。この場合は、この機器を遠ざけて使用してください。
- 携帯電話などの無線機器を本機の近くで使用すると、着信時や発信時、通話時に本機から雑音が出ることがあります。この場合は、それらの機器を本機から遠ざけるか、もしくは電源を切ってください。
- 直射日光の当たる場所や、発熱する機器の近く、閉め切った車内などに放置しないでください。変形、変色することがあります。
- 極端に温湿度の違う場所に移動すると、内部に水滴がつく（結露）ことがあります。そのまま使用すると故障の原因になりますので、数時間放置し、結露がなくなってから使用してください。

お手入れについて

- 通常のお手入れは、柔らかい布で乾拭きするか、堅く絞った布で汚れを拭き取ってください。汚れが激しいときは、中性洗剤を含んだ布で汚れを拭き取ってから、柔らかい布で乾拭きしてください。
- 変色や変形の原因となるベンジン、シンナーおよびアルコール類は、使用しないでください。



修理について

- お客様がこの機器や AC アダプターを分解、改造された場合、以後の性能について保証できなくなります。また、修理をお断りする場合もあります。
- 修理に出される場合、記憶した内容が失われることがあります。大切な記憶内容は、メモリー・カードに保存するか、記憶内容をメモしておいてください。修理するときには記憶内容の保存に細心の注意を払っておりますが、メモリー一部の故障などで記憶内容が復元できない場合もあります。失われた記録内容の修復に関しましては、補償も含めご容赦願います。
- 当社では、この製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打切後 6 年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。なお、保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店、または最寄りのローランド・サービスにご相談ください。

その他の注意について

- 記憶した内容は、機器の故障や誤った操作などにより、失われることがあります。失っても困らないように、大切な記憶内容はバックアップとしてメモリー・カードに保存しておいてください。
- 本体メモリーやメモリー・カードの失われた記憶内容の修復に関しましては、補償も含めご容赦願います。
- 故障の原因になりますので、ボタン、つまみ、入出力端子などに過度の力を加えないでください。
- ディスプレイを強く押ししたり、叩いたりしないでください。
- ケーブルの抜き差しは、ショートや断線を防ぐため、プラグを持ってください。
- 音楽をお楽しみになる場合、隣近所に迷惑がかからないように、特に夜間は、音量に十分注意してください。ヘッドホンを使用すれば、気がねなくお楽しみいただけます。
- 輸送や引っ越しをするときは、この機器が入っていたダンボール箱と緩衝材、または同等品で梱包してください。

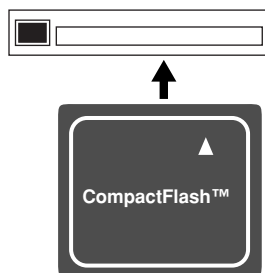
- この機器が入っていた梱包箱や緩衝材を廃棄する場合、各市町村のゴミの分別基準に従って行ってください。
- 接続には、当社ケーブル（PCS シリーズなど）をご使用ください。他社製の接続ケーブルをご使用になる場合は、次の点にご注意ください。
 - 接続ケーブルには抵抗が入ったものがあります。本機との接続には、抵抗入りのケーブルを使用しないでください。音が極端に小さくなったり、全く聞こえなくなる場合があります。ケーブルの仕様につきましては、ケーブルのメーカーにお問い合わせください。

- ※ MIDI は社団法人 音楽電子事業協会（AMEI）の登録商標です。
- ※ 文中記載の会社名及び製品名は、各社の商標または登録商標です。
- ※ CompactFlash（コンパクトフラッシュ）および  は米国 SanDisk 社の商標であり、CFA（CompactFlash Association）にライセンスされています。
- ※ ローランド株式会社は、CompactFlash™ および CF ロゴ（）のライセンサーとして認定されています。
- ※ Fugue © 1999-2005 Kyoto Software Research, Inc. All rights reserved.

カードをお使いになる前に

メモリー・カードの取り扱い

- メモリー・カードは、確実に奥まで差し込んでください。



- メモリー・カードの端子の部分に触れたり、汚したりしないでください。
- 本機のメモリー・カード・スロットはコンパクトフラッシュに対応しています。マイクロドライブには対応していません。
- メモリー・カードは精密な電子部品で作られていますので、取り扱いについては次の点に注意してください。
 - 静電気による破損を防ぐため、取り扱う前に身体に帯電している静電気を放電しておく。
 - 端子部に手や金属で触れない。
 - 曲げたり、落としたり、強い衝撃を与えたりしない。
 - 直射日光の当たる場所や、閉め切った自動車の中などに放置しない。（保存温度：-25 度～85 度）
 - 水に濡らさない。
 - 分解や改造をしない。

著作権について

- 第三者の著作物（音楽作品、映像作品、放送、公演、その他）の一部または全部を、権利者に無断で録音し、配布、販売、貸与、公演、放送などを行うことは法律で禁じられています。
- 第三者の著作権を侵害する恐れのある用途に、本機を使用しないでください。あなたが本機を用いて他者の著作権を侵害しても、弊社は一切責任を負いません。



目次

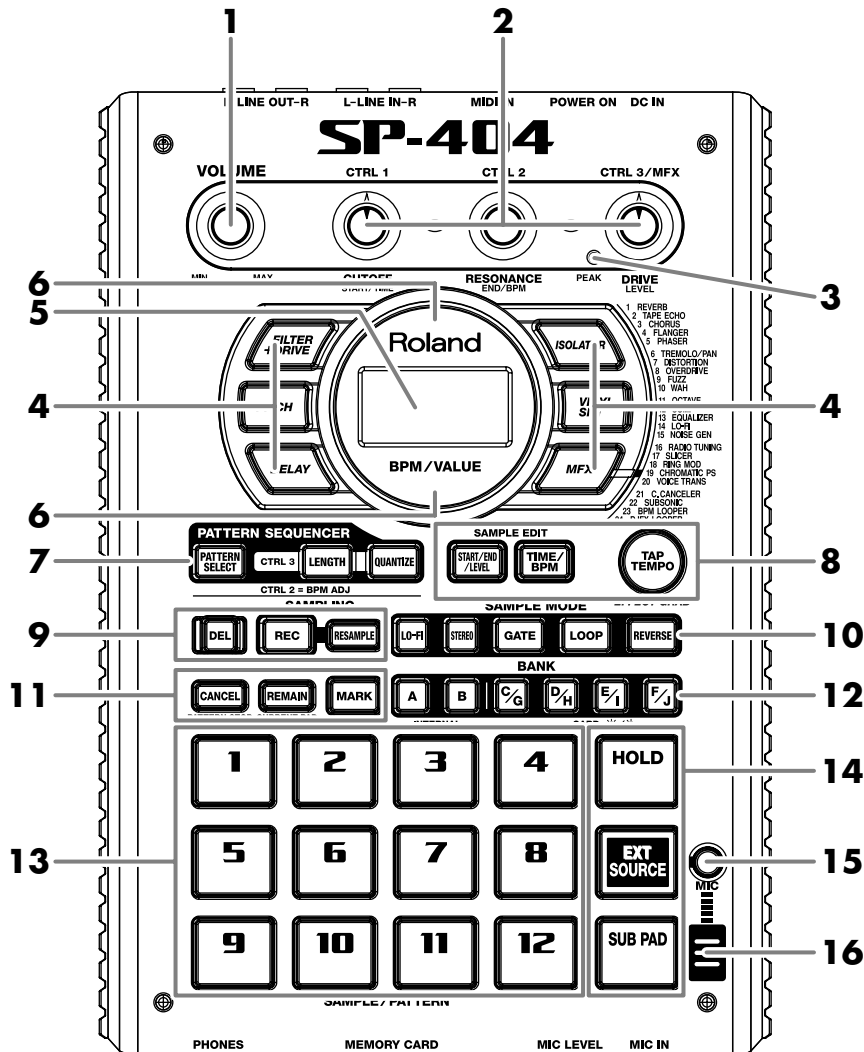
安全上のご注意	2
使用上のご注意	4
お使いになる前に	7
各部の名称と働き	7
外部機器と接続する	10
電源を入れる／切る	10
メモリー・カードを挿す／抜く	11
クイック・スタート	12
サンプルを聴いてみよう	12
サンプルにエフェクトをかけてみよう	12
パターンを演奏してみよう	13
サンプリングしてみよう	14
第1章 サンプルを鳴らす	16
サンプルの構成	16
サンプル・バンクを切り替える	16
同時に鳴らせるサンプルの数（最大同時発音数）	16
パッドから手を離してもサンプルが鳴り続けるように する（ホールド）	16
外部入力の音を鳴らす（エクスターナル・ソース）	17
第2章 エフェクトを使う	18
サンプルにエフェクトをかける	18
複数のサンプルにエフェクトをかける	18
すべてのサンプルへ同時にエフェクトをかける	19
直前に使用していたエフェクトを確認する	19
次に選ぶエフェクトのパラメーターをあらかじめ 設定する	19
エフェクト・リミット・モード	19
センド／リターン・モード（FLANGER、PHASER）	19
エフェクト一覧	20
第3章 サンプリングする	23
サンプリングする前に	23
CDの音をサンプリングする	23
マイクを使ってサンプリングする	24
メモリー・カードのバンクへサンプリングする	25
テンポを決めてサンプリングする	25
カウントを入れてサンプリングする	26
自動的にサンプリングをスタートする （オート・サンプリング）	26
サンプルにエフェクトをかけて再びサンプリングする （リサンプリング）	26
サンプルを消去する	27
パッドへのサンプルの割り当てを変更する	28
サンプリング可能な残り時間を調べる	28
第4章 サンプルの設定を変更する	29
サンプルの音量を設定する	29
フレーズを繰り返し鳴らす（ループ再生）／ 一度だけ鳴らす（ワン・ショット再生）	29
パッドを押している間だけサンプルを鳴らす （ゲート再生）／パッドを押し続けなくても サンプルが鳴るようにする（トリガー再生）	29
サンプルを逆方向から鳴らす（リバース再生）	30
不要な部分を鳴らさない（マーカー／ スタート・ポイント／エンド・ポイント）	30
不要な部分を消去する（トランケート）	32
サンプルのBPMを変更する	33
ピッチを変えずにサンプルの長さを変更する （タイム・モディファイ）	33

第5章 サンプルの演奏を記録する （パターン・シーケンサー）	34
パターンの構成	34
パターンのテンポを変更する	34
パターンの再生を止める	34
再生中にパターンを切り替える	34
パターンを録音する	34
パターンを消去する	36
パッドへのパターンの割り当てを変更する	37
第6章 メモリー・カードを使う	38
メモリー・カードをフォーマット（初期化）する	38
オーディオ・ファイルのインポート	38
オーディオ・ファイルのエクスポート	39
バックアップ・データを保存する （バックアップ・セーブ）	40
バックアップ・データを読み込む （バックアップ・ロード）	40
バックアップ・データを削除する （バックアップ・デリート）	40
第7章 その他の機能について	41
他のMIDI機器と組み合わせる	41
ディスプレイ・イルミネーションの点滅の速さを 調節する	42
電池の残り容量を確認する	42
プロテクトをかける	43
本体（インターナル）メモリーを初期化する	43
バージョン情報を確認する	43
SP-404の内部処理レベルを設定する	43
第8章 具体的な応用例	44
パターン・シーケンサーを使ってリズム・パターンを 作る	44
ターンテーブルと組み合わせて使う	45
資料	46
操作早見表	46
故障かな？と思ったら	47
メッセージ一覧	49
推奨するメモリー・カードについて	50
MIDIインプリメンテーション	50
MIDIインプリメンテーション・チャート	51
主な仕様	52
索引	53

お使いになる前に

各部の名称と働き

トップ・パネル



1. VOLUME つまみ

ライン・アウトおよびヘッドホンの音量を調節します。

2. CTRL 1～3 つまみ

選んだエフェクトに応じて各つまみに割り当てられたパラメーターをコントロールします。各つまみは、次のようなときにも使います。

CTRL 1 つまみ

サンプルの発音開始位置や、サンプルの再生時間を変更するときに使います。

CTRL 2 つまみ

パターンのBPM (テンポ) や、サンプルの発音終了位置を変更するときに使います。

CTRL 3/MFX つまみ

MFXの種類を選択や、サンプリング・レベル、サンプルの音量を変更するときに使います。

3. PEAK インジケーター

サンプリングするときのレベル調節の目安になるインジケーターです。このインジケーターが時々点灯するくらいにレベルを調節すると、適切なレベルでサンプリングすることができます。

※ PEAK インジケーターは内部 A/D 時のクリップ・レベルを示します。アナログ入力のクリップ・レベルを示すものではありません。

4. エフェクト・ボタン

使用するエフェクトを選びます。ボタンの点灯でオン、消灯でオフになります。(P.12、P.18、P.26、P.45)

※ 同時に複数のエフェクトをオンにすることはできません。

5. ディスプレイ

サンプルやパターンのBPM (テンポ)、各設定の値、エラー・メッセージなどを表示します。また、サンプリングの残り時間を表示させることもできます。

6. ディスプレイ・イルミネーション

パターンのテンポに同期して点滅します。

7.

PATTERN SELECT ボタン

パターンを再生／録音するときに押します。ボタンが点灯しているときは、パッドを押してパターンを選ぶことができます。(P.13、P.34、P.44)

LENGTH ボタン

パターン録音時のパターンの長さを設定します。(P.35、P.44)

QUANTIZE ボタン

パターン録音時のタイミング自動補正（クオンタイズ）の設定をします。(P.35、P.44)

8.

START/END/LEVEL ボタン

サンプルの発音開始／終了位置や音量を変更するときに使います。(P.17、P.29、P.32、P.35、P.44)

TIME/BPM ボタン

サンプルの再生時間やBPM（テンポ）を設定するときに使います。(P.14、P.25、P.33～P.35、P.44)

TAP TEMPO ボタン

このボタンを数回押すと、ボタンを押した間隔に応じてテンポを変えることができます。(P.25、P.34)

9.

DEL ボタン

サンプルやパターンを消去するときに使います。(P.15、P.27、P.32、P.36)

REC ボタン

サンプリングを開始／終了するときや、パターンを録音するときに使います。(P.14、P.23、P.34、P.44)

RESAMPLE ボタン

サンプルの音にエフェクトをかけて再度サンプリング（リサンプリング）するときに使います。(P.26)

10.

LO-FI ボタン

サンプリング時のグレード（スタンダード／ローファイ）を切り替えます。ボタン点灯でローファイ・サンプリング、消灯でスタンダード・サンプリングになります。(P.23)

STEREO ボタン

モノラルでサンプリングするかステレオでサンプリングするかを切り替えます。ボタン点灯でステレオ・サンプリング、消灯でモノラル・サンプリングになります。(P.17、P.23)

GATE ボタン

パッドを押している間だけサンプルが発音する**ゲート再生**と、パッドを押すたびに発音と発音停止を繰り返す**トリガー再生**を切り替えます。ボタン点灯でゲート再生、消灯でトリガー再生になります。(P.29)

LOOP ボタン

パッドを押したとき、サンプルを繰り返し鳴らす**ループ再生**と一度だけ鳴らす**ワン・ショット再生**を切り替えます。ボタン点灯でループ再生、消灯でワン・ショット再生になります。(P.29)

REVERSE ボタン

サンプルを逆方向に再生させる**リバース再生**に切り替えることができます。ボタン点灯でリバース再生、消灯で通常の再生になります。(P.30)

11.

CANCEL ボタン

このボタンを押すと、サンプリングやサンプル消去の操作を途中で中止することができます。また、パターンの再生や録音を止めることができます。

このボタンをすばやく4回押すと、発音しているすべての音を止めることができます。

REMAIN ボタン

このボタンを押すと、ディスプレイにサンプリング可能な残り時間が表示されます。また、このボタンを押しながらパッドを押すと、エフェクトをかけるサンプルや、設定を変更したいサンプルを選ぶことができます。(P.18、P.28)

MARK ボタン

サンプリングした音の一部だけを発音させるときに使います。このボタンが点灯しているときに指定した部分だけを発音します。(P.31)

12. BANK ボタン (A、B、C/G、D/H、E/I、F/J)

[PATTERN SELECT] が消灯しているときやパターンの録音中はサンプルのバンクを、[PATTERN SELECT] が点灯しているときはパターンのバンクを切り替えます。BANK [A] [B] を押してボタンを点灯させると、本体（インターナル）のバンクA、Bが選ばれます。BANK [C/G] ～ [F/J] を押してボタンを点灯させるとメモリー・カードのバンクC～Fが、BANK [C/G] ～ [F/J] をもう1回押してボタンを点滅させるとメモリー・カードのバンクG～Jが選ばれます。

13. パッド (1～12)

[PATTERN SELECT] が消灯しているときにパッドを押すと、押したパッドに割り当てられているサンプルが鳴ります。サンプルが鳴っている間、パッドが点灯します。

[PATTERN SELECT] が点灯しているときは、再生もしくは録音するパターンの選択を行います。

14.

HOLD パッド

パッドを押しながらホールド・パッドを押すと、パッドから指を離してもサンプルを鳴らし続けることができます。(P.16)

EXT SOURCE パッド

エクスターナル・ソース・パッドを押してボタンを点灯させると、サンプリングしなくても外部（ラインやマイク）入力の音を発音／消音させたり、エフェクトをかけることができます。(P.17、P.45)

SUB PAD

直前に叩いたパッドのサンプル音を、サブ・パッドで鳴らすことができます。手動でドラム・ロールのような演奏をするときに便利です。

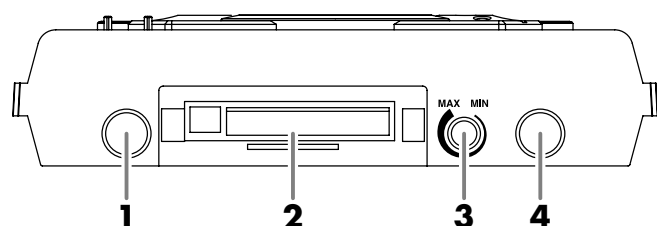
15. MIC ボタン

マイク入力のオン／オフを切り替えます。ボタン点灯でマイク入力がオンになります。(P.17、P.24)

16. 内蔵マイク

SP-404の内蔵マイクです。フロント・パネルのMIC IN ジャックに別売のマイクを接続すると、内蔵マイクは機能しなくなります。

フロント・パネル



1. PHONES ジャック

ステレオ・ヘッドホンを接続します。LINE OUT と同じ音を聴くことができます。(P.10)

2. MEMORY CARD スロット

別売のメモリー・カード（コンパクトフラッシュ）を挿入します。メモリー・カードのバンク C～J を使い、本体（インターナル）メモリーではできない長時間のサンプリングをすることができます。(P.11、P.38)

メモ

工場出荷時は、MEMORY CARD スロットの前にメモリー・カード・カバーが付いています。カバーを外すときは、カバーの左端と右端を内側につまんだまま、手前に引いてください。(P.11)

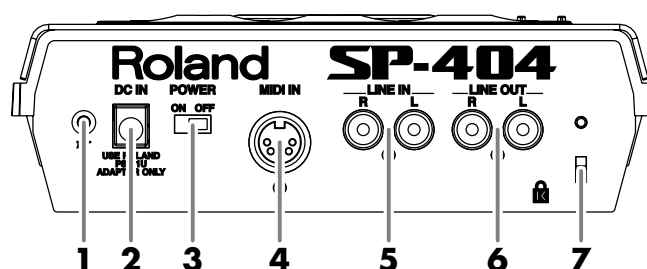
3. MIC LEVEL つまみ

SP-404 の内蔵マイクや MIC IN ジャックに接続したマイクの音量を調節します。

4. MIC IN ジャック

別売のマイクを接続します。(P.10)

リア・パネル



1. 接地（グラウンド）端子

設置条件によっては本体や接続されたマイクなどの金属部に触れると、違和感を覚えたりざらつくような感じになることがあります。これは人体に全く害のない極微量の帯電によるものですが、気になる方は、必要に応じ、接地端子を使って外部のアースか大地に接地してご使用ください。接地した場合、設置条件によってはわずかにハム（うなり）が混じる場合があります。なお接続方法がわからないときはローランド・サービスにご相談ください。

接続してはいけないところ

- 水道管（感電の原因になります）
- ガス管（爆発や引火の原因になります）
- 電話線のアースや避雷針（落雷のとき危険です）

2. DC IN ジャック

付属の AC アダプターを接続します。(P.10)

3. POWER スイッチ

電源をオン／オフします。(P.10)

4. MIDI IN コネクター

MIDI 機器を接続します。(P.41)

5. LINE IN ジャック (L/R)

CD プレーヤーなど、サンプリングする音源機器を接続します。(P.10)

6. LINE OUT ジャック (L/R)

オーディオ・システムやアンプ、ミキサーなどを接続します。(P.10)

7. 盗難防止用ロック (SECURITY LOCK)

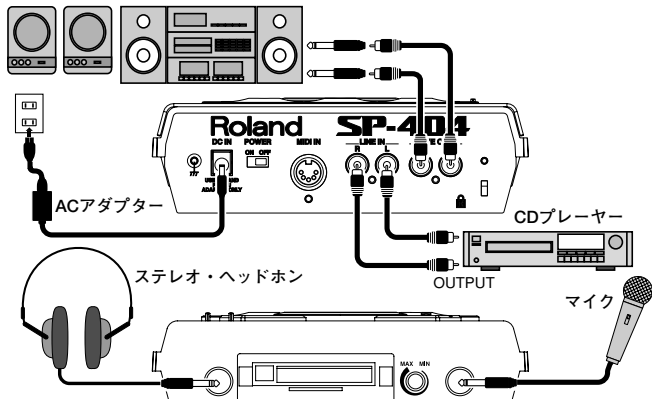
市販の盗難防止用セキュリティー・ワイヤーなどを接続することができます。

<http://www.kensington.com/>

外部機器と接続する

図を参照しながら、以下の手順で接続してください。

オーディオ・セット/アンプ内蔵スピーカーなど



1. 接続の前に、すべての機器の電源を切ります。

ご注意!

他の機器と接続するときは、誤動作やスピーカーなどの破損を防ぐため、必ずすべての機器の音量を絞った状態で電源を切ってください。

2. 付属の AC アダプターを DC IN ジャックに接続します。

単 3 電池 6 本でも駆動することができます。電池で駆動する場合、この手順は必要ありません。

電池の入れ方

本体底面の電池ケースのフタを外し、本体底部に表記してある図を確認して、向き（極性）を間違えないように電池を入れてください。電池を入れたら、確実にフタを閉めてください。

電池の容量が残り少なくなると、ディスプレイ・イルミネーションが点灯したままになり、ディスプレイ右下のドットが短い間隔と長い間隔で交互に点滅します。さらに電池容量が無くなると、ディスプレイに“Lo”と表示され、すべての操作ができなくなります。このようになりましたら、すぐに電池を交換してください。

メモ

本体（インターナル）メモリーの内容は、電池が切れても記憶しています。

メモ

電池容量が少なくなると、VOLUME つまみの位置によっては音がひずむ場合があります。このようなときも、電池を交換してください。

ご注意!

本体を裏返す際は、ボタン、つまみなどを破損しないように、新聞や雑誌などを重ねて本体の四隅や両端に敷いてください。また、その際、ボタン、つまみなどが破損しないような位置に配置してください。

ご注意!

本体を裏返す際は、落下や転倒を引き起こさないよう取扱いにご注意ください。

3. LINE OUT に、オーディオ・システムやアンプを接続します。ヘッドホンを使うときは、PHONES に接続します。

サンプリングする (P.14、P.23) ときは、LINE IN に CD プレーヤーなどの入力したい機器を、MIC IN にマイクを接続します。(SP-404 の内蔵マイクを使うときは、必要ありません。)

ご注意!

抵抗入りの接続ケーブルを使用すると、インプット (LINE IN、MIC IN) に接続した機器の音量が小さくなる場合があります。このときは、抵抗の入っていない接続ケーブル (ローランド: PCS シリーズなど) をご使用ください。

ご注意!

マイクロホンとスピーカーの位置によっては、ハウリング音 (キーンという音) が出ることがあります。その場合は、以下のように対処してください。

1. マイクロホンの向きを変える
2. マイクロホンとスピーカーを遠ざける
3. 音量を下げる

4. AC アダプターのプラグをコンセントに差し込みます。

電源を入れる/切る

電源を入れる

ご注意!

正しく接続したら、必ず次の手順で電源を投入してください。手順を間違えると、誤動作をしたりスピーカーなどが破損する恐れがあります。

1. SP-404 の VOLUME つまみを左いっぱいまで回して音量を最小にします。
2. 接続しているアンプやオーディオ・システムの音量を最小にします。
3. SP-404 の POWER スイッチを ON にします。

ご注意!

音量を絞ってから電源を入れてください。音量を絞っても、電源を入れるときに音がすることがありますが、故障ではありません。

4. 接続しているアンプやオーディオ・システムの電源を入れます。
5. SP-404 のパッドを叩いて音を聴きながら、VOLUME つまみを徐々に上げて音量を調節します。
接続しているアンプやオーディオ・システムの音量も適当な大きさに調節します。

電源を切る

1. SP-404 および接続しているアンプやオーディオ・システムの音量を最小にします。
2. アンプやオーディオ・システムの電源を切ります。
3. SP-404 の POWER スイッチを OFF にします。

メモリー・カードを挿す／抜く

ご注意!

メモリー・カードの抜き挿しは、必ず SP-404 の電源を切った状態で行ってください。電源を入れたまま行くと、メモリー・カードのデータが壊れたり、メモリー・カードが使えなくなったりする恐れがあります。

メモリー・カードを挿す

1. メモリー・カードをフロント・パネルのカード・スロットに挿入します。

ご注意!

メモリー・カードは挿入方向や表裏に注意し、確実に奥まで差し込んでください。また無理な挿入はしないでください。

ご注意!

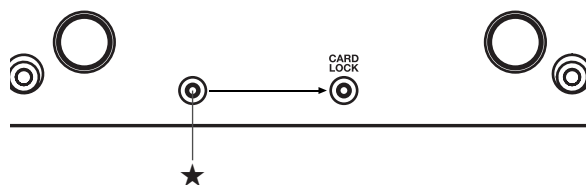
初めてメモリー・カードを使用するときは、必ず SP-404 でフォーマットしてください。(P.38)
別の機器でフォーマットしたメモリー・カードは、SP-404 で認識されません。

メモリー・カードを抜く

1. フロント・パネルのカード・スロット横のイジェクト・ボタンを押します。メモリー・カードの一部が押し出されますので、メモリー・カードをつまんで手前に引っ張ってください。

メモリー・カードの盗難防止について

工場出荷時は、本体底面の★の位置に専用ネジが取り付けられています。メモリー・カード・カバーを取り付けた状態で、その専用ネジをプラス・ドライバーで外して CARD LOCK のネジ穴に取り付けると、メモリー・カード・カバーの取り外しができなくなり、メモリー・カードの盗難防止に役立ちます。



ご注意!

本体を裏返す際は、ボタン、つまみなどを破損しないように、新聞や雑誌などを重ねて本体の四隅や両端に敷いてください。また、その際、ボタン、つまみなどが破損しないような位置に配置してください。

ご注意!

本体を裏返す際は、落下や転倒を引き起こさないよう取扱いにご注意ください。

クイック・スタート

サンプルを聴いてみよう

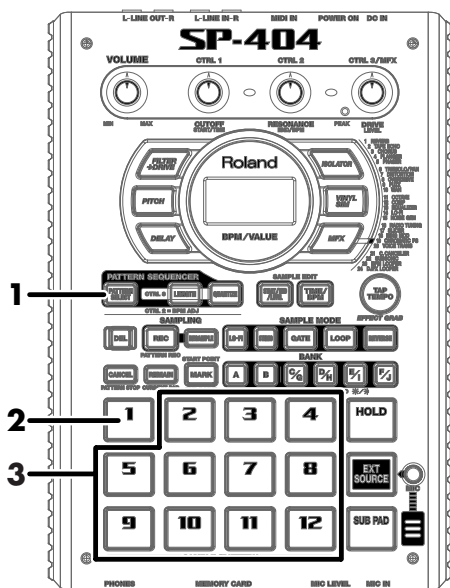
工場出荷時には、サンプル・バンク A のパッド 1～12 とサンプル・バンク B のパッド 1、2 にサンプルが割り当てられています。まずそれらを聴いてみましょう。

用語

サンプルとは
実際の演奏に必要な音が鳴るように、サンプリングした音（波形）にいくつかの設定を加え、パッドに割り当てたものです。

用語

サンプル・バンクとは
パッドに割り当てた 12 個のサンプルをひとまとめにしたものです。SP-404 には A～J の 10 個のサンプル・バンクがあります。



1. [PATTERN SELECT] が消灯していることを確認します。点灯していたら、[PATTERN SELECT] を押してボタンを消灯させます。
2. パッド 1 を押します。サンプルが鳴っている間、パッドが点灯します。
3. 音が鳴るのを確認したら、さらにパッド 2～12 を押してみましょう。パッドを押しても音が出ない場合は、サンプル・バンク A が選ばれているか（BANK [A] の点灯）を確認してください。他のバンクが選ばれていたら、BANK [A] を押して、バンク A に切り替えてください。

参照

パッドを強く叩いても音量は変わりません。必要以上に強く叩くと故障の原因にもなります。サンプルの音量の調節方法については、『サンプルの音量を設定する』（P.29）をご覧ください。

工場出荷時のサンプルやパターンについて

ご注意

工場出荷時のサンプルやパターンを、個人で楽しむ以外に権利者の許諾なく使用することは、法律で禁じられています。

工場出荷時に割り当てられているサンプル（サンプル・バンク A、サンプル・バンク B のパッド 1、2）やパターン（パターン・バンク A）は、いったん消去したり設定を変更したりすると、工場出荷時の状態に復帰させることはできません。工場出荷時の状態を残しておきたいときは、別売のメモリー・カード（コンパクトフラッシュ）を別途ご購入の上、メモリー・カードへバックアップしてください。

参照

メモリー・カードを購入する前に、『推奨するメモリー・カードについて』（P.50）をご覧ください。

参照

メモリー・カードのフォーマットやバックアップ方法については、『第 6 章 メモリー・カードを使う』（P.38）をご覧ください。

サンプルにエフェクトをかけてみよう

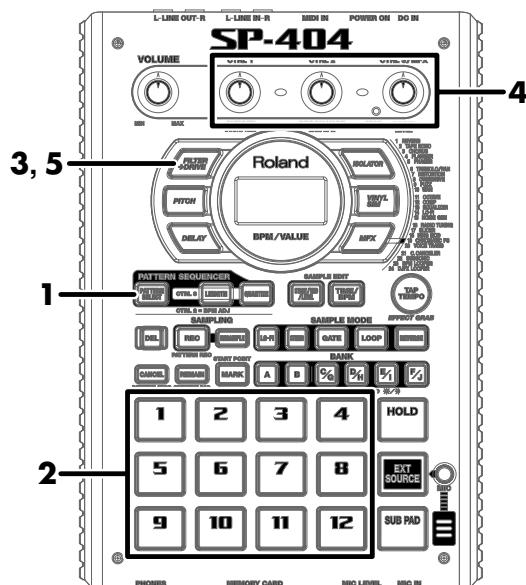
SP-404 は、音に特殊な効果を与える 29 種類のエフェクトを内蔵しています。

エフェクトを使うとどんな音になるか聴いてみましょう。

29 種類のエフェクトのうち、フィルター＋オーバードライブ、ピッチ・シフター、ディレイ、アインローター、ヴァイナル・シミュレーターの 5 種類については、直接ボタンを押して選べるようになっています。

残り 24 種類のエフェクトは MFX（マルチエフェクト）としてまとめられ、[MFX] を押しながら CTRL 3/MFX つまみを回すことで使用するエフェクトを選べるようになっています。

ここでは、サンプルにフィルター＋オーバードライブをかけてみましょう。



1. [PATTERN SELECT] が消灯していることを確認します。
点灯していたら、[PATTERN SELECT] を押してボタンを消灯させます。
2. フィルター+オーバードライブをかけたいサンプルが割り当てられているパッドを押します。
パッドが点灯し、サンプルが鳴ります。
3. [FILTER+DRIVE] を押して、ボタンを点灯させます。
サンプルの音にフィルター+オーバードライブがかかります。
4. CTRL 1～3つまみを回して、フィルター+オーバードライブのかけ具合を調節します。
CTRL 1 (CUTOFF)
フィルターのカットオフ周波数を調節します。左に回すほど暗く、こもった音になります。逆に右に回すほど明るく、クリアな音になります。
CTRL 2 (RESONANCE)
フィルターのレゾナンスを調節します。右に回すほど音質のくせが強くなります。
CTRL 3 (DRIVE)
フィルターの歪み量を調節します。右に回すほど歪みが多く、ワイルドな音になります。
5. フィルター+オーバードライブをオフにするときは、
[FILTER+DRIVE] を押してボタンを消灯させます。

参照

ピッチ・シフター、ディレイ、アインレター、ヴァイナル・シミュレーターについての説明や、MFX で使うエフェクトの選び方と各エフェクトの働きについては、『第2章 エフェクトを使う』(P.18) をご覧ください。

パターンを演奏してみよう

用語

パターンとは
SP-404 では、パッドを押していくつかのサンプルを順に鳴らし、その演奏をそのまま記録して曲にすることができます。このようにサンプルを演奏の順番に並べたものをパターンといいます。

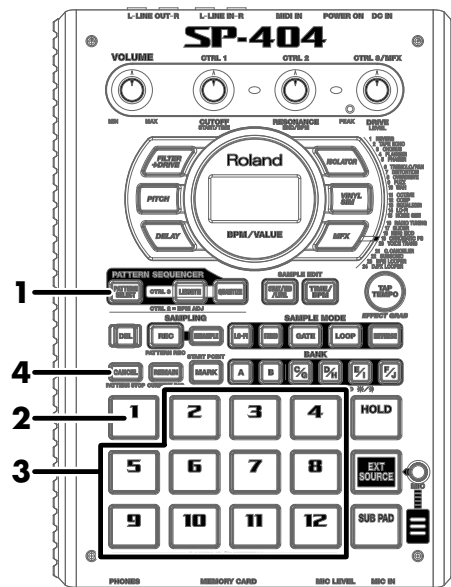
用語

パターン・バンクとは
パターンもサンプルと同様にパッドに割り当てられ、パッド 1～12 に割り当てられたパターンをひとまとめたものをパターン・バンクとして扱います。SP-404 には A～J の 10 個のパターン・バンクがあります。

メモ

パターン・バンクとサンプル・バンクはそれぞれ別のものです。例えば、バンク A のパターンにはバンク A のサンプルしか使用できないということはありません。

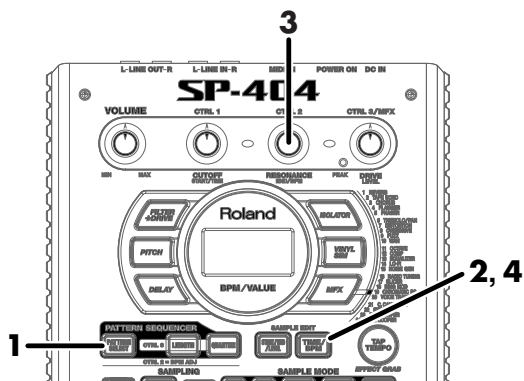
工場出荷時には、パターン・バンク A のパッド 1～12 にパターンが割り当てられています。それらを聴いてみましょう。



1. [PATTERN SELECT] を押して、ボタンを点灯させます。
ディスプレイに“Ptn”と表示されます。
 2. パッド 1 を押します。
パッド 1 が点滅から点灯に変わり、パターンの演奏が始まります。
パッドを押してもパターンの演奏が始まらないときは、[PATTERN SELECT] が点灯している状態でバンク A が選ばれているか (BANK [A] の点灯) を確認してください。他のバンクが選ばれていたなら、[PATTERN SELECT] が点灯している状態で BANK [A] を押して、バンク A に切り替えてください。
 3. パターンの演奏を確認したら、さらにパッド 2～12 を押しみましょう。
パターンの演奏中に別のパッドを押すと、次に演奏するパターンとして予約されます。現在演奏中のパターンを最後まで演奏すると、予約したパターンの演奏が自動的に始まります。
- ヒント**
[SUB PAD] を押しながらパッドを押すと、そのパッドのパターンへすぐに切り替わります。
4. [CANCEL] (PATTERN STOP) を押すと、パターンの演奏が止まります。

テンポを変えてパターンを演奏する

パターンの演奏テンポを変えてみましょう。



1. [PATTERN SELECT] を押して、ボタンを点灯させます。
2. [TIME/BPM] を押して、ボタンを点灯させます。
3. CTRL 2つまみを回します。
パターンの演奏テンポが変わります。ディスプレイには演奏テンポがBPMで表示されます。

用語

BPMとは
Beats Per Minute (ビーツ・パー・ミニット) の略で、1分間に演奏される4分音符の数のことです。

4. もう一度 [TIME/BPM] を押して、ボタンを消灯させます。

サンプリングしてみよう

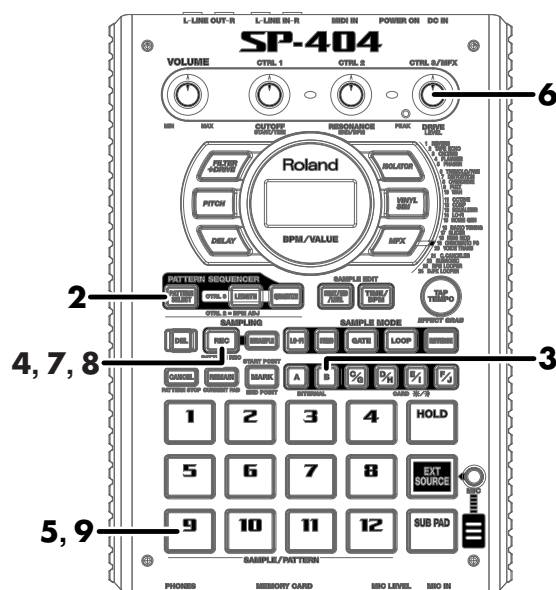
ここでは、工場出荷時にサンプルが割り当てられていないサンプル・バンクBのパッド9にサンプリングしてみます。

ご注意!

第三者が著作権を有する音声著作物を、権利者に無断で録音(サンプリング)することは、個人で楽しむなどの特別な場合を除き法律で禁止されています。違法な録音を行わないでください。

ご注意!

あなたがローランド製品を用いて違法な録音を行った結果、法律で罰せられたり権利者から補償を求められるなどしても、ローランド株式会社は一切の責任を負いません。



1. P.10を参照して、CDプレーヤーを接続します。
2. [PATTERN SELECT] が消灯していることを確認します。
点灯していたら、[PATTERN SELECT] を押してボタンを消灯させます。
3. BANK [B] を押して、ボタンを点灯させます。
4. [REC] を押して、ボタンを点灯させます。
サンプリングのスタンバイ状態になり、サンプル音が割り当てられていないパッドが点滅します。
ここでサンプリングを中止したいときは、[CANCEL] を押して [REC] を消灯させます。
5. パッド9を押します。
パッド9が点灯し、他のパッドが消灯します。
[REC] が点滅します。

6. CD プレーヤーの音量を調節します。

CTRL 3 (LEVEL) つまみを右いっぱいに戻してから、接続している CD プレーヤーの音量を調節します。PEAK インジケータが時々点灯するようにします。

ヒント

CTRL 3 (LEVEL) つまみを右いっぱいに戻しても PEAK インジケータが点灯しないときは、入力機器側の音量が小さすぎることが考えられます。そのままサンプリングしても問題はありませんが、より良い音質でサンプリングするためには、PEAK インジケータが時々点灯するように入力機器側の音量を調節することをおすすめします。

7. サンプリングしたい音を再生し、サンプリングを開始したいタイミングで [REC] を押します。

[REC] が点灯し、サンプリングが始まります。

8. サンプリングを終了したいところで、[REC] を押します。

パッド9と [REC] が消灯します。

参照

サンプリング可能な時間を超えると、ディスプレイに“FuL”と表示され、自動的にサンプリングを終了します。表示の内容については、「メッセージ一覧」(P.49)をご覧ください。

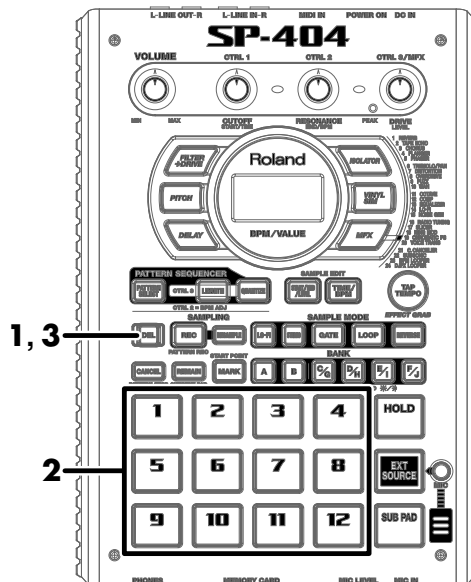
9. パッド9を押すと、今サンプリングした音を再生します。

参照

頭の部分や終わりの部分に不要な音や空白が入ってしまったとき、必要な部分だけを鳴らすように設定することができます。詳しくは、『不要な部分を鳴らさない(マーカ―/スタート・ポイント/エンド・ポイント)』(P.30)をご覧ください。

サンプリングした音が気に入らないとき

サンプリングした音を消して、再び『サンプリングしてみよう』の手順4からやり直してください。消去方法は次のとおりです。



1. [DEL] を押し、ボタンを点灯させます。
サンプルが割り当てられているパッドが減滅します。ディスプレイには“dEL”と表示されます。
2. 消したいサンプルが割り当てられているパッドを押します。
パッドが点灯し、[DEL] が点滅します。
3. [DEL] を押します。
[DEL] の点滅が点灯に変わり、ディスプレイのドットが減滅します。
点滅が消えると、消去は完了します。

ご注意!

ドットが減滅している間は絶対に電源を切らないでください。消去しようとしているサンプルだけでなく、他のサンプルのデータも破壊される恐れがあります。

第 1 章 サンプルを鳴らす

SP-404 は、1～12 のパッドとバンク・ボタンの操作でサンプルを鳴らします。

サンプルが鳴っているパッドは点灯します。

一番最後に押しで発音したパッドをカレント・パッドと呼びます。パネル上にはカレント・パッドの設定内容が表示されます。

メモ

サンプルの設定を変更する場合は、カレント・パッドに割り当てられているサンプルが対象となります。

サンプルの構成

パネル上のパッド 1～12 には、それぞれ 1 つずつサンプルを割り当てることができます。パッドに割り当てた 12 個のサンプルを 1 まとめたものをサンプル・バンクと呼び、SP-404 では A～J の 10 個のバンクを使うことができます。バンク A と B は SP-404 の本体（インターナル）メモリーにあるバンク、バンク C～J はメモリー・カードにあるバンクです。

メモ

電源投入時は、サンプル・バンク A が選ばれています。

サンプル・バンクを切り替える

※ [PATTERN SELECT] が消灯していることを確認します。

サンプル・バンクを切り替えるには、BANK [A]～[F/J] のいずれかを押します。押したボタンが点灯し、そのバンクに切り替わります。BANK [C/G]～[F/J] をもう 1 回押すと、ボタンが点滅に変わり、バンク G～J に切り替わります。

メモ

メモリー・カードがスロットに挿入されていないときは、BANK [C/G]～[F/J] を押してもサンプル・バンク C～J を選ぶことはできません。

ご注意!

サンプル・バンク C～J のサンプルを鳴らしているときは、メモリー・カードを絶対に抜かないでください。予期しない音が出てスピーカーやアンプを破損する恐れがあります。またメモリー・カード自体を破損する恐れもあります。

SP-404 で未使用（SP-404 で未フォーマット）のメモリー・カードを挿入し、BANK [C/G]～[F/J] を押すと、BANK [C/G]～[F/J] が点滅し、ディスプレイに“FMt”と表示されます。

ここでフォーマットを実行するには、BANK [C/G]～[F/J] を押しください。

BANK [C/G]～[F/J] が点灯に変わり、[DEL] が点滅し始めます。さらに [DEL] を押すとフォーマットが開始されます。

フォーマットの実行によって、メモリー・カードのデータがすべて初期化され、SP-404 で使用できるようになります。

ご注意!

フォーマット中（[DEL] 点灯中）は電源を切ったり、メモリー・カードを抜いたりしないでください。

同時に鳴らせるサンプルの数 (最大同時発音数)

SP-404 は、同時に最大 12 個のサンプルを鳴らすことができます（最大同時発音数：12 音）。ただし、ステレオに設定されているサンプルは、1 つで 2 音分に相当します。

参照

サンプルのステレオ/モノラルの設定はサンプリング時だけ設定が可能で、後から変更することはできません。サンプリング時に設定する方法については『CD の音をサンプリングする』（P.23）をご覧ください。

また、リサンプリング中は最大同時発音数が 4 音となりますのでご注意ください。

参照

リサンプリングについては、『サンプルにエフェクトをかけて再びサンプリングする（リサンプリング）』（P.26）をご覧ください。

同時に鳴らせるサンプルの数

	モノラル・サンプル	ステレオ・サンプル
通常の使用	12	6
リサンプリング中	4	2

パッドから手を離してもサンプルが鳴り続けるようにする (ホールド)

ホールド機能を使うと、パッドから手を離してもサンプルを鳴らし続けることができます。

サンプルを繰り返し連続して鳴らすときに便利です。（ループ再生、P.29）

ここではバンク B のパッド 1 のサンプルを例に、ホールド機能の使い方を説明します。

1. [PATTERN SELECT] が消灯していることを確認します。
点灯していたら、[PATTERN SELECT] を押してボタンを消灯させます。
2. BANK [B] が点灯しているかを確認し、パッド [1] を押してサンプルを発音します。
3. パッドから手を離す前に、[HOLD] を押します。
[HOLD] が点灯し、ホールド状態になります。
パッドから手を離してもサンプルが鳴り続けます。
4. [HOLD] をもう一度押すと、発音を停止します。
パッドは、サンプルが鳴っている間点灯します。

ヒント

ホールドは、ゲート再生（[GATE] が点灯）になっているサンプルにのみ有効です。トリガー再生（[GATE] が消灯）に設定されているサンプルの場合は、[HOLD] を押す/押さないによる鳴りかたの変化はありません。

参照

ゲート再生/トリガー再生はパッドごとに設定することができます。詳しくは P.29 をご覧ください。

外部入力の音を鳴らす (エクスターナル・ソース)

SP-404 では、LINE IN ジャックに接続した CD プレーヤーや MIC IN ジャックに接続したマイク、SP-404 の内蔵マイクなどの外部からの入力音に対して、サンプルと同様に発音／発音停止をコントロールしたり、エフェクトをかけることができます。

CD プレーヤーを使う

1. CD の再生をスタートします。

※ [MIC] が消灯していることを確認します。

2. [EXT SOURCE] を押して、パッドを点灯させます。

パッドが点灯している間、ライン入力音が鳴ります。

[GATE] が点灯しているときは、[EXT SOURCE] を押している間だけ音が鳴り、パッドから指を離すとライン入力音は消音（パッド消灯）します。

[GATE] が消灯しているときは、[EXT SOURCE] を押すたびに発音（パッド点灯）／消音（パッド消灯）が切り替わりま

メモ

GATE の点灯／消灯は、[GATE] を押して切り替えることができます。

3. [STEREO] を押してボタンを点灯／消灯させ、外部入力のステレオ／モノラルを切り替えます。

[STEREO] 点灯：外部入力の音がステレオで聞こえます。

[STEREO] 消灯：外部入力の音がモノラルで聞こえます。

ヒント

CD など、もともとステレオ入力の場合は、[STEREO] を点灯させておくのがよいでしょう。

4. エフェクト・ボタンのいずれかを押してボタンを点灯させると、外部入力音にエフェクトをかけることができます。(P.18)

ヒント

エフェクト・ボタンを押して点灯させても外部入力音にエフェクトがかからない場合は、さらに [REMAIN] (CURRENT PAD) を押しながら [EXT SOURCE] を押しください。外部入力音にエフェクトがかかるようになります。

ライン入力とマイク入力を同時に使う

1. LINE IN ジャックに接続した機器とマイクから音声を入力します。

2. [EXT SOURCE] と [MIC] を押して、両方とも点灯させます。

メモ

[MIC] が消灯していると、マイクから音声を入力できなくなります。

ご注意

マイクとスピーカーの位置によっては、ハウリング音（キーンという音）が出ることがあります。その場合は、以下のように対処してください。

1. マイクの向きを変える
2. マイクをスピーカーから遠ざける
3. 音量を下げる

[GATE] が点灯しているときは、[EXT SOURCE] を押している間だけ音が鳴り、パッドから指を離すとラインとマイク入力音は消音（パッド消灯）します。

[GATE] が消灯しているときは、[EXT SOURCE] を押すたびに発音（パッド点灯）／消音（パッド消灯）が切り替わりま

メモ

GATE の点灯／消灯は、[GATE] を押して切り替えることができます。

3. [STEREO] を押してボタンを点灯／消灯させ、外部入力のステレオ／モノラルを切り替えます。

[STEREO] 点灯：外部入力の音がステレオで聞こえます。

[STEREO] 消灯：外部入力の音がモノラルで聞こえます。

ヒント

CD など、もともとステレオ入力の場合は、[STEREO] を点灯させておくのがよいでしょう。

4. エフェクト・ボタンのいずれかを押してボタンを点灯させると、外部入力音にエフェクトをかけることができます。(P.18)

ヒント

エフェクト・ボタンを押して点灯させても外部入力音にエフェクトがかからない場合は、さらに [REMAIN] (CURRENT PAD) を押しながら [EXT SOURCE] を押しください。外部入力音にエフェクトがかかるようになります。

外部入力音の音量を調節する

入力音の音量が大きすぎて歪んだり、小さすぎてノイズが目立つような場合は、次の手順で音量を調節してください。

1. [EXT SOURCE] を押して、パッドを点灯させます。マイクから入力する場合は、[MIC] も押してボタンを点灯させます。外部入力音が鳴ります。

2. [START/END/LEVEL] を押して、ボタンを点灯させます。

3. CTRL 3 (LEVEL) つまみを回して、入力音の音量を調節します。

左に回すほど音量が小さくなり、右に回すほど大きくなります。

PEAK インジケーターが時々点灯するように調節します。

ヒント

CTRL 3 (LEVEL) つまみを回しても外部入力の音量が変化しない場合は、[REMAIN] (CURRENT PAD) を押しながら [EXT SOURCE] を押しください。（この操作によって、外部入力が音量の調節対象に選ばれます。）

その後、改めて [START/END/LEVEL] を押し、CTRL 3 (LEVEL) つまみを回して調節してください。

4. もう一度 [START/END/LEVEL] を押しします。

[START/END/LEVEL] が消灯し、音量が設定されます。

ヒント

CD やマイクなどからの音量が大きすぎると、PEAK インジケーターが点灯していなくても音が歪んでしまうことがあります。逆に小さすぎると、CTRL 3 (LEVEL) つまみを回しても音が十分に大きくなりません。このような場合は、CD 側で音量を調節したり、マイクのときは MIC LEVEL つまみを回して、適当な音量になるよう調節してください。

第2章 エフェクトを使う

SP-404 は 29 種類のエフェクトを搭載していますので、本体だけでサンプルにエフェクトをかけて音に変化をつけることができます。

- 29 種類のエフェクトのうち、フィルター+オーバードライブ、ピッチ・シフター、ディレイ、アイソレーター、ヴァイナル・シミュレーターの 5 種類については、直接ボタンを押して選べるようになっています。残りの 24 種類のエフェクトは MFX (マルチエフェクト) としてまとめられ、24 種類の中から使用するエフェクトが選べるようになっています。
- エフェクトは、いずれか 1 つをオンにすることができます。複数のエフェクトを同時にオンすることはできません。1 つのサンプルに複数のエフェクトを使いたい場合や、サンプルごとに違うエフェクトをかけた音が必要な場合には、リサンプリングを行ってください。

参照

リサンプリングを行うことで、サンプルにエフェクトをかけた音を新たなサンプルとして扱うことができます。詳しくは『サンプルにエフェクトをかけて再びサンプリングする (リサンプリング)』(P.26) をご覧ください。

サンプルにエフェクトをかける

1. [PATTERN SELECT] が消灯していることを確認します。点灯していたら、[PATTERN SELECT] を押してボタンを消灯させます。
2. エフェクト・ボタンがすべて消灯していることを確認します。いずれかのボタンが点灯している場合、そのボタンを押して消灯させます。
3. エフェクトをかけたいサンプルが割り当てられているパッドを押します。パッドが点灯し、サンプルが鳴ります。このパッドがカレント・パッドになります。
4. エフェクト・ボタンのいずれかを押します。押したボタンが点灯します。エフェクトは、ボタン点灯でオン、消灯でオフになります。

メモ

エフェクトによっては、エフェクトをオンにしてから音にエフェクトがかかるまで若干時間がかかる場合があります。

5. CTRL 1 ~ 3 つまみを回して、エフェクトのかかり具合を調節します。

参照

選んだエフェクトによって、CTRL 1 ~ 3 つまみを回して調節される設定が変わります。詳しくは『エフェクト一覧』(P.20) をご覧ください。

テンポよくエフェクトをオン/オフする (エフェクト・グラブ)

通常エフェクト・ボタンは、ボタンを押すたびにオン/オフが切り替わるため、エフェクトのオン/オフを繰り返すときには、何回もボタンを押さなければなりません。特に短時間でテンポよくオン/オフを繰り返す場合は大変です。

このようなときは、エフェクト・グラブ機能を使います。

エフェクト・グラブ機能を使うときは、[TAP TEMPO] (EFFECT GRAB) を押しながらエフェクト・ボタンを押します。

[TAP TEMPO] (EFFECT GRAB) を押しながらエフェクト・ボタンを押すと、ボタンを押している間だけそのエフェクトがオンになるので、演奏に合わせてテンポよくエフェクトをオン/オフすることができます。

MFX で使うエフェクトを選ぶ

MFX で使用するエフェクト (MFX タイプ) を切り替えます。

CTRL 3/MFX つまみを使う

1. [MFX] を押しながら、CTRL 3/MFX つまみを回します。ディスプレイに MFX タイプが 1 ~ 24 の番号で表示されます。右に回すと番号が大きくなり、左に回すと小さくなります。
2. 選びたい MFX タイプの番号が表示されたら、[MFX] から指を離します。MFX がオンになります。

パッドを使う

1. [MFX] を押しながらパッド [1] ~ [12] を押すと、MFX の 1 ~ 12 を直接選ぶことができます。[MFX] と [VINYL SIM] を押しながらパッド [1] ~ [12] を押すと、MFX の 13 ~ 24 を直接選ぶことができます。ディスプレイに MFX タイプが 1 ~ 24 の番号で表示され、MFX がオンになります。

複数のサンプルにエフェクトをかける

通常、エフェクトをオンにしたり切り替えたりすると、カレント・パッドのサンプルにのみエフェクトがかかり、それ以外のサンプルにはエフェクトがかかりません。

しかし次の操作によって、カレント・パッドを含む複数のサンプルにエフェクトをかけることができます。

1. [PATTERN SELECT] が消灯していることを確認します。点灯していたら、[PATTERN SELECT] を押してボタンを消灯させます。
2. 使用するエフェクトのボタンを押して、ボタンを点灯させます。
3. [REMAIN] (CURRENT PAD) を押します。カレント・パッドが点滅します。
4. [REMAIN] (CURRENT PAD) を押したまま、エフェクトをかけたいパッドを順番に押していきます。押したパッドが点滅し、新たなカレント・パッドになります。押したパッドのうち、カレント・パッド以外は点灯が変わりません。

	エフェクト
パッド点灯	○
パッド消灯	×
カレント・パッド：点灯時間の長い点滅	○
カレント・パッド：点灯時間の短い点滅	×

ヒント

[REMAIN] (CURRENT PAD) を押したまま同じパッドを押すたびに、エフェクトがかかる/かからないが交互に切り替わります。

5. エフェクトをかけたいパッドをすべて押したら、[REMAIN] (CURRENT PAD) から指を離します。

メモ

指定したパッドにそれぞれ違うタイプのエフェクトをかけることはできません。指定したパッドすべてに同じエフェクトがかかります。

すべてのサンプルへ同時にエフェクトをかける

すべてのパッドへ一度にエフェクトをかけたい場合、パッドの数だけ操作をしなければならず、時間がかかります。

そこで、すべてのパッドにエフェクトをかける場合に限り、簡単な操作で行うことができます。

メモ

この操作をすると、バンク A～J のすべてのパッドにエフェクトがかかるようになります。

1. [PATTERN SELECT] が消灯していることを確認します。
点灯していたら、[PATTERN SELECT] を押してボタンを消灯させます。
2. [REMAIN] (CURRENT PAD) を押しながら、使用するエフェクトのボタンを押します。
押したエフェクト・ボタンが点滅します。
パッドがすべて点灯 (カレント・パッドは点滅) し、すべてのパッドにエフェクトがかかります。

エフェクト・ボタン	エフェクト
点灯	1 つまたは複数のサンプルにエフェクトがかかります。
点滅	10 バンク × 12 パッド = 120 サンプルすべてにエフェクトがかかります。

サンプルが割り当てられていないパッドは、点灯しません。

ヒント

カレント・パッドにのみエフェクトがかかる状態に戻すには、再度 [REMAIN] (CURRENT PAD) を押しながら、点滅しているエフェクト・ボタンを押します。

ご注意!

エフェクト・ボタンが点滅している状態では、パッドごとにエフェクトがかかる／かからないを切り替えることはできません。

直前に使用していたエフェクトを確認する

直前に使用していたエフェクト (カレント・エフェクト) の種類を忘れたときに便利な機能です。

メモ

エフェクトがかかっていないときに、確認することができます。

1. [TAP TEMPO] を押します。
[TAP TEMPO] を押している間、カレント・エフェクトのボタンが点滅します。

メモ

電源投入時は、FILTER + DRIVE がカレント・エフェクトになっています。

次に選ぶエフェクトのパラメーターをあらかじめ設定する

エフェクトの種類を変更する前に、あらかじめパラメーターの設定を好みの状態にしておくことができます。

1. [REMAIN] を押しながら CTRL 1～3 つまみを回して、パラメーターの値を調節します。
CTRL 1 つまみを回すと “C-1” と表示されます。CTRL 2、CTRL 3 つまみを回すと、それぞれ “C-2”、“C-3” と表示されます。

2. 次のエフェクト・ボタンを押します。
手順 1 で調節したつまみの値が、次のエフェクトに反映されます。

メモ

エフェクトがかかっていないときに CTRL 1～3 つまみを回すと、カレント・エフェクトのパラメーターに値が反映されます。エフェクトの種類を変えない (手順 2 で同じエフェクト・ボタンを押す) ときは、手順 1 の [REMAIN] を押しながらという操作は必要ありません。

エフェクト・リミット・モード

エフェクト・リミット・モードをオンにすると、エフェクトの効き具合を抑えられ、音が発振したり極端な大音量になったりするのを防ぐことができます。大音量下のクラブやライブハウスなどで使用すると便利な場合があります。

1. [CANCEL] を押しながら [MFX] を押して、オン/オフを切り替えます。
“L.on” : エフェクト・リミット・モードをオンにする
“L.oF” : エフェクト・リミット・モードをオフにする

メモ

電源投入時は、必ずオフになります。

SEND/リターン・モード (FLANGER、PHASER)

SEND/リターン・モードをオンにすると、FLANGER、PHASER の 2 種類のエフェクトに限り、CTRL 3 つまみを回して BALANCE (ダイレクト音とエフェクト音の音量バランス) を調節することができます。

これによって、ダイレクト音をカットしたりすることができます。SEND/リターン・モードをオンにすると、CTRL 1 つまみで DEPTH と RESONANCE の両方を同時に調節できるようになります。

SEND/リターン・モードをオフにすると、CTRL 1 つまみで DEPTH を、CTRL 3 つまみで RESONANCE を独立して調節することができます。

DJ ミキサーの SEND/RETURN などに SP-404 を接続して、エフェクトとして使用するとき便利な機能です。

1. [CANCEL] を押しながら [VINYL SIM] を押して、オン/オフを切り替えます。
“S.on” : SEND/リターン・モードをオンにする
“S.oF” : SEND/リターン・モードをオフにする

メモ

電源投入時は、必ずオンになります。

第2章 エフェクトを使う

エフェクト一覧

直接ボタンを押して選ぶことができるエフェクト

種類	CTRL 1 (表示)	CTRL 2 (表示)	CTRL 3 (表示)
FILTER + DRIVE ★	CUTOFF (CoF)	RESONANCE (rES) ★	DRIVE (drV) ★
オーバードライブ付きのロー・パス・フィルターです。高音域をカットし、歪みを加えます。	カットする周波数を調節します。	カットオフ周波数における周波数特性のピーク量を調節します。	歪みを加えます。
PITCH ★	PITCH (Pit)	FEEDBACK (Fdb) ★	BALANCE (bAL)
ピッチを変えます。	ピッチを±2オクターブ変化させます。	ピッチ・シフト音の繰り返し量を調節します。	ダイレクト音とエフェクト音の音量バランスを調節します。
DELAY ★	DELAY TIME (t32 ~ t1)	FEEDBACK (Fdb) ★	BALANCE (bAL)
音を繰り返します。	音を繰り返す時間を調節します。 (*1)	音を繰り返す回数を調節します。	ダイレクト音とエフェクト音の音量バランスを調節します。
ISOLATOR ★	LOW (Lo) ★	MID (Mid) ★	HIGH (Hi) ★
低/中/高音域の音の抽出や消去をします。	低音域を抽出/消去します。	中音域を抽出/消去します。	高音域を抽出/消去します。
VINYL SIM	COMPRESSOR (CMP)	NOISE LEVEL (noS)	WOW FLUTTER (FLu)
アナログ盤の音質に変換します。	アナログ盤特有の音の圧縮感を調節します。	アナログ盤のノイズの音量を調節します。	アナログ盤の回転ムラを調節します。

☆: エフェクト・リミット・モード (P.19) をオンにすると、エフェクトの効き具合が抑えられるエフェクトです。さらに、CTRL 1～3の列にある★印は、効き具合が抑えられるパラメーターを意味しています。

*1: 時間 (ディレイ・タイム) は、エフェクトがかかっているサンプルのうち、もっとも長いサンプルのテンポを基準として、音符単位で設定されます。

設定できる音符の種類:

32分音符 (t32) / 16分音符 (t16) / 3連8分音符 (t8t) / 付点16分音符 (t16.) / 8分音符 (t8) / 3連4分音符 (t4t) / 付点8分音符 (t8.) / 4分音符 (t4) / 3連2分音符 (t2t) / 付点4分音符 (t4.) / 2分音符 (t2) / 付点2分音符 (t2.) / 全音符 (t1)

ただし、ディレイ・タイムが約2000 msecを超える設定を選ぶことはできません。
なお、パターンの再生中は、パターンのテンポが基準となります。

MFX

種類	CTRL 1 (表示)	CTRL 2 (表示)	CTRL 3 (表示)
1. REVERB	REVERB TIME (tiM)	TONE (ton)	BALANCE (bAL)
音に残響を加えます。	残響時間を調節します。	残響音の音質を調節します。	ダイレクト音とエフェクト音の音量バランスを調節します。
2. TAPE ECHO ★	REPEAT RATE (rAt)	INTENSITY (int) ★	BALANCE (bAL)
往年のテープ式エコーの効果です。	テープ・スピードを設定します。	エコー音の繰り返し量を設定します。	ダイレクト音とエフェクト音の音量バランスを調節します。
3. CHORUS	DEPTH (dPt)	RATE (rAt)	BALANCE (bAL)
音に広がりや厚みをつけます。	音の揺れの深さを設定します。	揺れの周期を設定します。	ダイレクト音とエフェクト音の音量バランスを調節します。
4. FLANGER ★ (S/R = ON)	DEPTH/RESONANCE (d-r) ★	RATE (rAt)	BALANCE (bAL)
ジェット機の上昇音/下降音のようなウネリを付けます。 ※センド/リターン・モードがオンのとき:	DEPTHとRESONANCEの両方を同時に調節します。	ウネリの速さを調節します。	ダイレクト音とエフェクト音の音量バランスを調節します。
(S/R = OFF)	DEPTH/MANUAL (dPt)	RATE (rAt)	RESONANCE (rES) ★
※センド/リターン・モードがオフのとき:	ウネリの深さを調節します。 CTRL 2つまみ (RATE) を左に回しきったときは、音高 (MANUAL) を調節します。	ウネリの速さを調節します。 左に回しきったときは、ウネリが停止し、CTRL 1つまみ (DEPTH) によって音高 (MANUAL) を調節することができます。	クセのあるウネりにします。

種類	CTRL 1 (表示)	CTRL 2 (表示)	CTRL 3 (表示)
5. PHASER ★ (S/R = ON)	DEPTH/RESONANCE (d-r) ★	RATE (rAt)	BALANCE (bAL)
音にウネリを付けます。 ※センド/リターン・モードが オンのとき：	DEPTHとRESONANCEの両方 を同時に調節します。	ウネリの速さを調節します。	ダイレクト音とエフェクト音の 音量バランスを調節します。
(S/R = OFF)	DEPTH/MANUAL (dPt)	RATE (rAt)	RESONANCE (rES) ★
※センド/リターン・モードが オフのとき：	ウネリの深さを調節します。 CTRL 2つまみ (RATE) を左 に回しきったときは、音高 (MANUAL) を調節します。	ウネリの速さを調節します。 左に回しきったときは、ウネリ が停止し、CTRL 1つまみ (DEPTH) によって音高 (MANUAL) を調節します。	クセのあるウネリにします。
6. TREMOLO/PAN	DEPTH (dPt)	RATE (rAt)	WAVEFORM (trM/PAn)
周期的に音量または定位 (パン) を変化させます。	音量/定位の変化量を調節しま す。	音量/定位変化の速さを調節し ます。	音量/定位変化の周期カーブを 変えます。左に回すと音量変化、 右に回すと定位変化となります。
7. DISTORTION ★	DRIVE (drV) ★	TONE (ton) ★	LEVEL (LEV) ★
音を激しく歪ませます。	歪み具合を調節します。	音質を調節します。	音量を調節します。
8. OVERDRIVE ★	DRIVE (drV) ★	TONE (ton) ★	LEVEL (LEV) ★
音をマイルドに歪ませます。	歪み具合を調節します。	音質を調節します。	音量を調節します。
9. FUZZ ★	DRIVE (drV) ★	TONE (ton) ★	LEVEL (LEV) ★
音に倍音を加えて激しく歪ませ ます。	歪み具合を調節します。	音質を調節します。	音量を調節します。
10. WAH ★	SENS (SnS)	FREQUENCY (Frq)	RESONANCE (rES) ★
ワウ効果が得られます。	ワウ効果の感度を調節します。	効果音の音の高さを調節します。	ワウのピーク量を調節します。
11. OCTAVE	-2OCT LEVEL (oC2)	-1OCT LEVEL (oC1)	DIRECT LEVEL (dir)
オクターブ下の音を加えます。	2オクターブ下の音を加えます。	1オクターブ下の音を加えます。	ダイレクト音の音量を調節しま す。
12. COMP ★ (LIMIT = OFF)	SUSTAIN (SuS)	ATTACK (Att)	LEVEL (LEV) ★
音の粒立ちをそろえます。 ※エフェクト・リミット・モー ドがオフのとき：	コンプレッサーのかかり具合を 調節します。	音のアタック感を調節します。	音量を調節します。
(LIMIT = ON)	SUSTAIN (SuS)	RELEASE (rEL)	LEVEL (LEV) ★
※エフェクト・リミット・モー ドがオンのとき：	コンプレッサーのかかり具合を 調節します。	音のリリース感を調節します。	音量を調節します。
13. EQUALIZER ★	LOW (Lo) ★	MID (Mid) ★	HIGH (Hi) ★
音域ごとの音量を調整します。	低域の音量を調節します。	中域の音量を調節します。	高域の音量を調節します。
14. LO-FI ★	SAMPLE RATE (rAt)	BIT (bit) ★	FILTER (FLt)
ローファイ・サウンドを作ります ます。	サンプリング周波数を調節しま す。	ビット数を調整します。	フィルターの効き具合を調節し ます。
15. NOISE GEN ★	COLOR (CoL)	QUALITY (qLt) ★	LEVEL (LEV) ★
ノイズを作り出します。	「サーツ」というノイズの音質を 調節します。	スクラッチ・ノイズ (レコード 盤の傷) の出る頻度を調節しま す。	「サーツ」というノイズの音量を 調節します。
16. RADIO TUNING	TUNING (tun)	NOISE LEVEL (noS)	FREQUENCY RANGE (Frq)
ラジオから聞こえるような音を 再現します。	ラジオのチューニングのスレ具 合を調節します。	雑音の音量を調節します。	音質を調節します。
17. SLICER ★	TIMING PTN (P01 ~ 16)	RATE (t1 ~ t8)	FEEDBACK (Fdb) ★
音を連続的にカットします。フ ランジャー付きです。	音をカットするタイミングを決 めます。(*2)	TIMING PTNの長さを調節しま す。(*3)	フランジャーの効き具合を調節 します。
18. RING MOD ★	FREQUENCY (Frq) ★	SENS (SEn) ★	BALANCE (bAL)
金属的な音質に変化させます。	金属音の音の高さを調節しま す。	周波数の変調のかかり具合を調 節します。	ダイレクト音とエフェクト音の 音量バランスを調節します。
19. CHROMATIC PS	PITCH 1 (-C ~ CC)	PITCH 2 (-C ~ CC)	BALANCE (bAL)
ピッチを半音単位で変える、2 ボイスのピッチ・シフターです。	ピッチ 1 を半音単位で± 1 オク ターブ変化させます。	ピッチ 2 を半音単位で± 1 オク ターブ変化させます。	エフェクト音とダイレクト音の バランスを調節します。
20. VOICE TRANS.	FORMANT (FrM)	EFFECT LEVEL (EFF)	DIRECT LEVEL (dir)
人間の声を加工して、いろいろ なボイスを作り出します。	声の特徴 (フォルマント) を調 節します。	エフェクト音の音量を調節しま す。	ダイレクト音の音量を調節しま す。
21. C.CANCELER	L-R BALANCE (L-r)	LOW BOOST (Lo)	HIGH BOOST (Hi)
ボーカルなど、中央に定位して いる音を消します。	一番よく消えるポイントを探し ます。	ベースなど、中央定位で低域の 音を增強します。	高域の音を增強します。

第2章 エフェクトを使う

種類	CTRL 1 (表示)	CTRL 2 (表示)	CTRL 3 (表示)
22. SUBSONIC	PITCH (Pit)	THRESHOLD (thr)	BALANCE (bAL)
エフェクターへの入力音の音量によって、低音のサイン波を加えます。(*4)	サイン波の周波数を調節します。	サイン波が鳴り始める音量レベルを調節します。	ダイレクト音とエフェクト音の音量バランスを調節します。
23. BPM LOOPER ★	LENGTH (LEn) ★	TIMING (oFF、1 ~ 8)	LOOP SW (oFF、on)
入力音を短い周期でループさせます。	ループの長さを設定します。	小節中で、ループさせた音が自動的に鳴り始めるタイミング(8分音符単位)を設定します。(*5) ※ループを自動的に鳴らしたくない場合は“oFF”にします。	音が鳴っているときにオンにすると、その時点の音をループさせます。オフにすると、ループを解除します。
24. DJFX LOOPER ★	LENGTH (LEn) ★	SPEED (-1.0 ~ 1.0)	LOOP SW (oFF、on)
BPM LOOPER の TIMING が SPEED になったエフェクトです。入力音の再生方向と再生スピードを変えて、ターンテーブルを触っているような効果を追加します。	ループの長さを設定します。	再生方向と再生スピードを調節します。12時より左に回すと逆再生、12時より右に回すと正方向に再生します。12時で再生停止します。	音が鳴っているときにオンにすると、その時点の音をループさせます。オフにすると、ループを解除します。

☆：エフェクト・リミット・モード (P.19) をオンにすると、エフェクトの効き具合が抑えられるエフェクトです。さらに、CTRL 1～3の列にある★印は、効き具合が抑えられるパラメーターを意味しています。

*2：MFXに「17. SLICER」を選んだとき、CTRL 1つまみを回して選ぶTIMING PTNは以下のようになっています。

*3：TIMING PTNの周期は、エフェクトがかかっているサンプルの中で最も長いサンプルのテンポに同期します。

ただし、パターンが再生中であれば、パターンのテンポに同期します。

同期速度はRATEによって調節することができ、

RATE 最小 (CTRL 2つまみを左に回し切る)：TIMING PTNの1周期が1小節に相当

RATE 最大 (CTRL 2つまみを右に回し切る)：TIMING PTNの1周期が1/8小節に相当

となります。

CTRL 2つまみの位置によって、1小節、1/2小節、1/4小節、1/8小節を選ぶことができます。

*4：CTRL 3のバランスを12時の方向へ回し、CTRL 1のピッチを右に回しきって、入力ソースに対して適度にサイン波が鳴るようにCTRL 2のスレッシュホールドを設定します。スレッシュホールドの設定が終わったら、ピッチとバランスを調節します。

ドラムのキックなどの補強用に便利です。

*5：TIMINGの周期は、エフェクトがかかっているサンプルの中で最も長いサンプルのテンポに同期します。

ただし、パターンが再生中であれば、パターンのテンポに同期します。

第3章 サンプリングする

ご注意!

第三者が著作権を有する音声著作物を、権利者に無断で録音（サンプリング）することは、個人で楽しむなどの特別な場合を除き法律で禁止されています。違法な録音を行わないでください。

ご注意!

あなたがローランド製品を用いて違法な録音を行った結果、法律で罰せられたり権利者から補償を求められるなどしても、ローランド株式会社は一切の責任を負いません。

サンプリングする前に

サンプリングする前に、サンプリング操作の中で設定する項目やサンプリング時間について説明します。

高音質／ローファイ・サンプリングの選択（サンプリング・グレード）

パッドごとに STANDARD/LO-FI の2段階のグレード（サンプリング・グレード）を選んでサンプリングすることができます。

サンプリング・グレードは [LO-FI] で切り替えることができます。

[LO-FI] 消灯：STANDARD

高音質でサンプリングしたいときに選びます。

[LO-FI] 点灯：LO-FI

ローファイ・サウンドになり、サンプリング可能な時間も大幅に長くなります。

ご注意!

サンプリングをした後で、サンプリング・グレードを変更することはできません。

ステレオ／モノラル・サンプリングの選択

パッドごとにサンプリングをステレオで行うかモノラルで行うかを設定することができます。

[STEREO] を押してボタンを点灯するとステレオ・サンプリング、消灯でモノラル・サンプリングになります。

ご注意!

サンプリングをした後で、ステレオ↔モノラルの変更することはできません。

サンプリング時間について

本体（インターナル）メモリー、メモリー・カードにサンプリング可能な時間は次の通りです。

メモ

ここに示されている時間は、モノラルでサンプリングしたときの時間で、本体（インターナル）メモリーの場合はサンプル・バンク A と B、メモリー・カードの場合はサンプル・バンク C ～ J のサンプルの合計時間です。

メモ

ステレオ・サンプリングの場合は、サンプリング可能時間が半分になります。

本体（インターナル）メモリー

STANDARD	LO-FI
約 5 分	約 11 分

メモリー・カード

容量	STANDARD	LO-FI
32 MB	約 12 分	約 24 分
64 MB	約 24 分	約 48 分
128 MB	約 48 分	約 96 分
256 MB	約 96 分	約 193 分
512 MB	約 193 分	約 386 分
1 GB	約 386 分	約 772 分

ご注意!

パターンを作成した場合や、メモリー・カードにバックアップ・セーブしている場合は、サンプリング可能時間が上記より短くなります。

参照

すべてのパッドにサンプリングしてしまったり、サンプリング可能な時間を使いきってしまった場合は、消去してもよいサンプルをあらかじめ消去し、空いたパッドにサンプリングするようにします。詳しくは、『サンプルを消去する』（P.27）をご覧ください。

CD の音をサンプリングする

CD に入っている音を、ステレオでサンプリングします。

ここでは、バンク B のパッド 10 にステレオでサンプリングする操作を例にとって説明します。

1. P.10 を参照して、LINE IN ジャックに CD プレーヤーを接続します。
2. CD を再生スタンバイ状態にします。
3. [PATTERN SELECT] が消灯していることを確認します。
点灯していたら、[PATTERN SELECT] を押してボタンを消灯させます。
4. [REC] を押して、ボタンを点灯させます。
サンプリング可能なパッドが点滅し、サンプリングのスタンバイ状態になります。

メモ

ここでサンプリングを中止したいときは、[CANCEL] を押して [REC] を消灯させます。

5. BANK [B] を押して、ボタンを点灯させます。
サンプル・バンク B が選ばれました。
6. パッド 10 を押します。
パッド 10 が点灯し、[REC] が点滅します。
7. [LO-FI] を押して、サンプリング・グレードを選びます。
[LO-FI] 消灯：STANDARD（高音質）
[LO-FI] 点灯：LO-FI（ローファイ）
8. [STEREO] を押して、ボタンを点灯させます。
ステレオ・サンプリングが選ばれました。

メモ

入力がステレオのときにモノラル・サンプリングを選ぶと、L/Rともに同じ音が録音されます。この場合、ステレオ感はなくなりませんが、発音数は1音消費するだけになり、メモリーの消費もステレオの半分の量になるので、状況に応じて使い分けるとよいでしょう。

9. エフェクトをかけながらサンプリングしたい場合は、ここでエフェクト・ボタンを押します。
押したエフェクト・ボタンが点灯し、CDの音にエフェクトがかかります。

メモ

このとき、CTRL 1つまみやCTRL 2つまみを使ってエフェクトの効き具合を調節することができます。なお、CTRL 3つまみはサンプリング・レベルの調節に使用しますので、エフェクトの効き具合を調節することはできません。

10. CDの再生をスタートし、CTRL 3 (LEVEL) つまみを回してPEAKインジケーターが時々点灯するようにサンプリング・レベルを調節します。

調節が終わったら、CDプレーヤーをいったん停止して、再生スタンバイ状態にします。

11. CDの再生をスタートして、サンプリングを開始したいタイミングで[REC]を押します。

[REC] が点灯し、サンプリングが始まります。

ご注意!

サンプリング中は、絶対に電源を切らないでください。電源を切るとサンプリング中のサンプルだけでなく、他のサンプルも破壊される恐れがあります。

12. サンプリングを終了したいところで、[REC]を押します。

[REC] とパッド 10 が消灯します。

手順 10 でエフェクトをかけながらサンプリングしたときは、エフェクト・ボタンも消灯します。

13. パッド 10 を押すと、今サンプリングした音を再生します。

参照

頭の部分や終わりの部分に不要な音や空白が入ってしまったとき、必要な部分だけを鳴らすように設定することができます。詳しくは、『不要な部分を鳴らさない（マーカースタート・ポイント/エンド・ポイント）』(P.30)をご覧ください。

マイクを使ってサンプリングする

マイクからの入力（モノラル）をサンプリングします。

ここでは、バンク B のパッド 11 にモノラルでサンプリングする操作を例にとって説明します。

1. P.10 を参照して、MIC IN ジャックにマイクを接続します。

※ SP-404 の内蔵マイクを使う場合、接続する必要はありません。

2. [PATTERN SELECT] が消灯していることを確認します。

点灯していたら、[PATTERN SELECT] を押してボタンを消灯させます。

3. [REC] を押して、ボタンを点灯させます。

サンプリング可能なパッドが点滅し、サンプリングのスタンバイ状態になります。

メモ

ここでサンプリングを中止したいときは、[CANCEL] を押して [REC] を消灯させます。

4. BANK [B] を押して、ボタンを点灯させます。

サンプル・バンク B を選びました。

5. パッド 11 を押します。

パッド 11 が点灯し、[REC] が点滅します。

6. [LO-FI] を押して、サンプリング・グレードを選びます。

[LO-FI] 消灯：STANDARD（高音質）

[LO-FI] 点灯：LO-FI（ローファイ）

7. [STEREO] が点灯していたら、[STEREO] を押してボタンを消灯させます。

モノラル・サンプリングを選びました。

メモ

入力がモノラルのときにステレオ・サンプリングを選ぶこともできますが、発音数を2倍消費することになり、メモリーの消費も2倍になります。

8. [MIC] を押して、ボタンを点灯させます。

マイクから音声を入力できるようになりました。

9. CTRL 3 (LEVEL) つまみを右いっぱい回して、マイクに向かって音を鳴らしながら MIC LEVEL つまみを回し、PEAK インジケーターが時々点灯するようにサンプリング・レベルを調節します。

ヒント

入力した音が歪むときは、CTRL 3 (LEVEL) つまみを左に回し、歪みがなくなるところで止めてください。

ご注意!

マイクとスピーカーの位置によっては、ハウリング音（キーンという音）が出ることがあります。その場合は、以下のように対処してください。

1. マイクの向きを変える
2. マイクをスピーカーから遠ざける
3. 音量を下げる

10. エフェクトをかけながらサンプリングしたい場合は、ここでエフェクト・ボタンを押します。

押したエフェクト・ボタンが点灯し、マイクの音にエフェクトがかかります。

メモ

このとき、CTRL 1つまみやCTRL 2つまみを使ってエフェクトの効き具合を調節することができます。なお、CTRL 3つまみはサンプリング・レベルの調節に使用しますので、エフェクトの効き具合を調節することはできません。

参照

ここで、あらかじめテンポを決めたり、カウントを入れたりしてサンプリングすることができます。詳しくは、『テンポを決めてサンプリングする』や『カウントを入れてサンプリングする』(P.26)をご覧ください。

11. [REC] を押します。

[REC] が点灯し、サンプリングが始まります。

ご注意!

サンプリング中は、絶対に電源を切らないでください。サンプリング中のサンプルだけでなく、他のサンプルも破壊される恐れがあります。

12. サンプリングを終了したいところで、[REC] を押します。

[REC] とパッド 11 が消灯します。

手順 10 でエフェクトをかけながらサンプリングしたときは、エフェクト・ボタンも消灯します。

13. パッド 11 を押すと、今サンプリングした音を再生します。

参照

頭の部分や終わりの部分に不要な音や空白が入ってしまったとき、必要な部分だけを鳴らすように設定することができます。詳しくは、『不要な部分を鳴らさない(マーカ―/スタート・ポイント/エンド・ポイント)』(P.30)をご覧ください。

メモリー・カードのバンクへサンプリングする

ここでは、メモリー・カードのバンク C へサンプリングする操作を例にとって説明します。

ご注意!

メモリー・カードの抜き挿しは、必ず SP-404 の電源を切った状態で行ってください。電源を入れたまま行くと、メモリー・カードのデータが壊れたり、メモリー・カードが使えなくなったりする恐れがあります。

1. メモリー・カードをフロント・パネルのカード・スロットに挿入します。

2. SP-404 の電源を入れます。(P.10)

3. BANK [C] を押して、ボタンを点灯させます。

メモリー・カードが SP-404 用にフォーマットされていない場合は、BANK [C/G] ~ [F/J] が点滅し、ディスプレイに“FMt”と表示されますので、カードをフォーマットします。

1. BANK [C/G] ~ [F/J] のどれか1つを押します。

BANK [C/G] ~ [F/J] が点灯に変わり、[DEL] が点滅し始めます。

2. [DEL] を押して、フォーマットを開始します。

フォーマット中は、ディスプレイのドットが点滅します。点滅が消えると、フォーマットは完了します。

フォーマットの実行によって、メモリー・カード内部のデータがすべて消去され、SP-404 で使用できるようになります。

3. もう一度、BANK [C] を押してボタンを点灯させます。

4. この後の手順は、『CD の音をサンプリングする』(P.23) や『マイクを使ってサンプリングする』(P.24) を参照してください。

テンポを決めてサンプリングする

サンプリングのスタンバイ状態で BPM (テンポ) を設定しておく、サンプリング終了時、ボタンを押す直前の BPM 値に合わせた拍に、発音停止のタイミング(エンド・ポイント)が自動的に設定されます。

1. 『CD の音をサンプリングする』(P.23) や『マイクを使ってサンプリングする』(P.24) の手順 1 ~ 10 を参考にして、サンプリングの準備をします。

2. [TIME/BPM] を押して、ボタンを点灯させます。

3. CTRL 2 (BPM) つまみを回して、BPM を設定します。

右に回すと BPM が大きく(テンポが速く)なり、左に回すと BPM が小さく(テンポが遅く)なります。左に回し切ると“---”と表示され、テンポの設定が解除されます。

設定範囲: 40 ~ 200

メモ

BPM が 40 ~ 60、160 ~ 180 のときは、偶数の値のみ設定することができます。

BPM が 180 ~ 200 のときは、180、183、186、190、193、196、200 のいずれかに設定することができます。

メモ

このとき、CTRL 2 (BPM) つまみかわりに、[TAP TEMPO] を使って BPM を設定することもできます。[TAP TEMPO] を一定の間隔で叩くと、その間隔を 4 分音符とみなした BPM が設定され、値がディスプレイに表示されます。BPM の不明な CD などからサンプリングする場合に便利です。

4. [TIME/BPM] を押して、ボタンを消灯させます。

5. [REC] を押します。

[REC] が点灯し、サンプリングが始まります。

6. サンプリングを終了したいところで、[REC] を押します。

[REC] とパッドが消灯します。

参照

サンプリング終了後、BPM に合わせてエンド・ポイントが自動的に設定され、[MARK] が点灯します。『不要な部分を鳴らさない(マーカ―/スタート・ポイント/エンド・ポイント)』(P.30)をご覧ください。

参照

サンプリングした時間が複数小節の場合や 1 小節に満たない場合は、BPM の表示値が 2 倍や半分になることがあります。この場合、[TIME/BPM] を押してボタンを点灯させ、CTRL 2 (BPM) つまみを回して希望の値に補正してください。『サンプルの BPM を変更する』(P.33)をご覧ください。

メモ

表示された BPM 値は、サンプリングした時間から求めた近似値で誤差を含みます。

メモ

BPM の値によっては、BPM に相当する時間と、スタート・ポイントからエンド・ポイントまでの時間とが厳密には一致しないことがあります。このため、サンプルをループ再生(P.29)で長時間鳴らし続けると、徐々にタイミングがずれてくる場合があります。

7. サンプリングしたパッドを押すと、今サンプリングした音を再生します。

カウントを入れてサンプリングする

カウント（1、2、3、4）を入れて、サンプリングを開始することができます。あらかじめテンポや拍を考えてサンプリングするとき便利です。

1. 『CDの音をサンプリングする』（P.23）や『マイクを使ってサンプリングする』（P.24）の手順1～10を参考にして、サンプリングの準備をします。

参照

サンプリングのスタンバイ状態でBPM（テンポ）を設定しておくことができます。詳しくは、『テンポを決めてサンプリングする』（P.25）を参考にしてください。

2. [START/END/LEVEL] を押して、ボタンを点灯させます。
3. [REC] を押します。
[REC] が点灯し、ディスプレイに“-1-” → “-2-” → “-3-” → “-4-” → “rEC” と表示され、カウント音も鳴ります。“rEC” の表示と同時に、サンプリングが始まります。
4. サンプリングを終了したいところで、[REC] を押します。
[REC] とパッド、[START/END/LEVEL] が消灯します。
5. サンプリングしたパッドを押すと、今サンプリングした音を再生します。

自動的にサンプリングをスタートする（オート・サンプリング）

SP-404には、指定したレベル以上の音（信号）が入力されると、自動的にサンプリングを開始するオート・サンプリング機能があります。曲のイントロからサンプリングするとき便利です。

以下の操作を行うとサンプリング開始レベルが設定され、その後、設定したレベルを超える入力があるとサンプリングを開始します。

1. [PATTERN SELECT] が消灯していることを確認します。
点灯していたら、[PATTERN SELECT] を押してボタンを消灯させます。
2. [CANCEL] を押しながら [REC] を押します。
[REC] が点滅し、“-0-” と表示されます。
3. CTRL 3 (LEVEL) つまみを回してレベルを設定します。
PEAK インジケータが点灯するレベルがサンプリング開始レベルになります。右に回すほどレベルは高くなります。このとき、ディスプレイに設定レベル（0～9の10段階）が表示されます。
表示例：-3-
メモ
表示が“-0-”のときは、通常のサンプリング（オート・サンプリングしない）になります。
メモ
ここでオート・サンプリングを中止したいときは、[CANCEL] を押して [REC] を消灯させます。
4. [REC] を押して、サンプリング開始レベルを確定させます。
[REC] が消灯します。

5. 『CDの音をサンプリングする』（P.23）や『マイクを使ってサンプリングする』（P.24）の手順1～10を参考にして、サンプリングの準備をします。

6. [REC] を押します。

[REC] が点灯し、信号入力待ち状態になります。ディスプレイには“rdY”と表示されます。

LINE IN やマイクからサンプリング開始レベルを超える入力があると、サンプリングが始まります。

サンプリングを開始すると、“rEC”と表示が変わります。

ご注意!

サンプリング中は、絶対に電源を切らないでください。電源を切るとサンプリング中のサンプルだけでなく、他のサンプルも破壊される恐れがあります。

7. サンプリングを終了したいところで、[REC] を押します。
[REC] とパッドが消灯します。

オート・サンプリングをやめたいとき

1. [PATTERN SELECT] が消灯していることを確認します。
点灯していたら、[PATTERN SELECT] を押してボタンを消灯させます。
2. [CANCEL] を押しながら [REC] を押します。
[REC] が点滅します。
3. ディスプレイに“-0-”が表示されるまで、CTRL 3 (LEVEL) つまみを左いっぱいに戻します。
4. [REC] を押します。
[REC] が消灯します。

サンプルにエフェクトをかけて再びサンプリングする（リサンプリング）

SP-404では、サンプルにエフェクトをかけながら鳴らし、これをサンプリングして新たなサンプルとして扱うことができます。この操作をリサンプリングといいます。

ここでは、バンクAのパッド1にフィルター+オーバードライブをかけて、バンクBのパッド12にリサンプリングする操作を例にとって説明します。

1. [PATTERN SELECT] が消灯していることを確認します。
点灯していたら、[PATTERN SELECT] を押してボタンを消灯させます。
2. [RESAMPLE] を押して、ボタンを点灯させます。
“LEV” と表示されます。
3. リサンプリングの元になるBANK [A] を押してボタンを点灯させ、パッド1を押します。
パッド1が点灯し、パッド1のサンプルが鳴ります。
4. [FILTER+DRIVE] を押して、ボタンを点灯させます。
フィルター+オーバードライブがオンになり、バンクAのパッド1の音にエフェクトがかかります。
必要に応じてCTRL 1～CTRL 2つまみを回し、エフェクトのかけ具合を調節します。

メモ

[RESAMPLE] が点灯しているときは、CTRL 3 つまみを回してエフェクトのかかり具合を変えることはできません。CTRL 3 つまみでエフェクトのかかり具合を変えたい場合は、[CANCEL] を押して [RESAMPLE] を消灯させてください。

5. CTRL 3 (LEVEL) つまみを回して、PEAK インジケーターが時々点灯するようにサンプリング・レベルを調節します。
6. [REC] を押して、ボタンを点滅させます。
リサンプリング可能なバンクのボタンとパッドが点滅します。
7. リサンプリング先の BANK [B] を押してボタンを点灯させ、パッド 12 を押します。
パッド 12 が点灯します。

ご注意!

元のサンプルと同じバンクの同じパッドに、リサンプリングすることはできません。

8. [LO-FI] を押して、サンプリング・グレードを選びます。
[LO-FI] 消灯：STANDARD (高音質)
[LO-FI] 点灯：LO-FI (ローファイ)
9. [STEREO] を押して、ステレオ/モノラル・サンプリングを選びます。
[STEREO] 点灯：ステレオ・サンプリング
[STEREO] 消灯：モノラル・サンプリング
10. [REC] を押して、ボタンを点灯させます。
このとき、まだリサンプリングは始まりません。
11. リサンプリングの元になる BANK [A] を押してボタンを点灯させ、パッド 1 を押します。
パッド 1 のサンプルが鳴り始めると同時に、リサンプリングが始まります。

ご注意!

リサンプリング中は、絶対に電源を切らないでください。電源を切ると、リサンプリング中のサンプルだけでなく、他のサンプルも破壊される恐れがあります。

12. リサンプリングを終了したいところで、[REC] を押します。
[REC] とパッド 1、[FILTER+DRIVE] が消灯します。
BANK [A] が消灯し、BANK [B] が点灯します。
13. パッド 12 を押すと、今リサンプリングした音を再生します。

サンプルを消去する

1. [PATTERN SELECT] が消灯していることを確認します。
点灯していたら、[PATTERN SELECT] を押してボタンを消灯させます。
2. [DEL] を押して、ボタンを点灯させます。
ディスプレイに“dEL”と表示され、サンプルが割り当てられているパッドが点滅します。

メモ

ある 1 つのバンクのすべてのパッドにサンプルが割り当てられていない場合、ディスプレイに“EMP”と表示され、消去を行なうことはできません。

3. バンク・ボタンとパッドを押して、消去するサンプルのバンクとパッドを指定します。
選んだパッドが点灯し、[DEL] が再び点滅します。
サンプルが割り当てられていない (消灯している) パッドを押しても無視されます。

ヒント

同じバンク内であれば、複数のパッドを同時に選ぶことができます。

メモ

プロテクト (P.43) がかかっているバンクを指定すると、“Prt” (Protected) と表示され、消去することはできません。

メモ

消去を中止するときは、[CANCEL] を押します。

4. [DEL] を押します。
[DEL] の点滅が点灯に変わり、ディスプレイのドットが点滅します。
消去実行中のパッドが点灯します。
ドットの点滅が消えると、消去は完了します。

ご注意!

ドットが点滅している間は、絶対に電源を切らないでください。消去しているサンプルだけでなく他のサンプルやメモリー・カードも破壊される恐れがあります。

サンプルをまとめて消去する

本体 (インターナル) メモリーまたはメモリー・カードのサンプルをまとめて消去することができます。

1. [PATTERN SELECT] が消灯していることを確認します。
点灯していたら、[PATTERN SELECT] を押してボタンを消灯させます。
2. [CANCEL] を押しながら [DEL] を押します。
ディスプレイに“dAL”と表示され、[DEL] が点灯します。
BANK [A] ~ [F/J] が点滅します。

メモ

メモリー・カードがスロットに挿入されていないときは、BANK [C/G] ~ [F/J] は点滅しません。

3. バンク・ボタンを 1 つ押して、消去するメモリーを指定します。
BANK [A] または [B] : 本体メモリー
BANK [C/G] ~ [F/J] : メモリー・カード

メモ

プロテクト (P.43) がかかっていると、“Prt” (Protected) と表示され、消去することはできません。

メモ

消去を中止するときは、[CANCEL] を押します。

4. [DEL] を押します。
[DEL] の点滅が点灯に変わり、ディスプレイのドットが点滅します。
ドットの点滅が消えると、消去は完了します。

ご注意!

ドットが点滅している間は、絶対に電源を切らないでください。消去しているサンプルだけでなく他のサンプルやメモリー・カードも破壊される恐れがあります。

パッドへのサンプルの割り当てを変更する

2つのパッドの間でサンプルを入れ替えることによって、パッドへのサンプルの割り当てを変更することができます。

サンプルが割り当てられたパッドと、サンプルが割り当てられていないパッドの間でも入れ替えることができます。

1. **[PATTERN SELECT]** が消灯していることを確認します。
点灯していたら、**[PATTERN SELECT]** を押してボタンを消灯させます。
 2. **[DEL]** を押しながら **[REC]** を押します。
ディスプレイに“CHG”と表示され、**[DEL]** と **[REC]** が点灯します。
サンプルが割り当てられているパッドが点滅します。
 3. 入れ替える一方のサンプルを、バンク・ボタンおよびパッドを押して選びます。
押したパッドが点灯に変わります。
 4. 入れ替えるもう一方のサンプルを、バンク・ボタンおよびパッドを押して選びます。
押したパッドが点灯し、**[REC]** が点滅します。
選ばれた2つのパッドを除いてその他のパッドが消灯します。
- メモ**
入れ替えを中止するときは、**[CANCEL]** を押します。
5. **[REC]** を押します。
[DEL] と **[REC]** が点灯し、ディスプレイのドットが点滅します。
入れ替え実行中のパッドが点灯します。
ドットの点滅が消えると、入れ替えは完了します。

ご注意!

本体（インターナル）メモリーのサンプルとメモリー・カードのサンプルを入れ替える場合、本体（インターナル）メモリーとメモリー・カードに十分な空き容量がないと“FuL”と表示され、入れ替えることはできません。

ご注意!

ディスプレイのドットが点滅している間は、絶対に電源を切らないでください。電源を切ると、本体（インターナル）メモリーおよびメモリー・カード全体が破壊される恐れがあります。

サンプリング可能な残り時間を調べる

1. **[PATTERN SELECT]** が消灯していることを確認します。
点灯していたら、**[PATTERN SELECT]** を押してボタンを消灯させます。
 2. 残り時間を調べたいメモリーを選びます。
本体（インターナル）メモリーの残り時間を調べるときは、**BANK [A]** または **[B]** を押して、ボタンを点灯させます。
メモリー・カードの残り時間を調べるときは、**BANK [C/G]** ~ **[F/J]** のいずれかを押してボタンを点灯させます。
- メモ**
BANK [A] と **[B]** (**BANK [C/G]** ~ **[F/J]**) のいずれかを押しても同じ結果が得られます。
3. **[REMAIN]** を押します。
ディスプレイに、「STANDARD」「モノラル」でサンプリングした場合の残り時間が表示されます。



メモ

表示された残り時間には多少の誤差が含まれています。

メモ

メモリー・カードの残り時間を表示させているときは、残り時間の大きさに応じて、分/秒の表示のしかたが変わります。10分以上の残りがある場合は10の位の秒数しか表示されません。



また、残り時間が100分以上ある場合は、秒数は表示されず「分」のみの表示となります。



第4章 サンプルの設定を変更する

サンプルの音量を設定する

SP-404 では、サンプルごとに発音時の音量を設定することができます。

パッド間のサンプルの音量バランスをそろえるのに便利です。

1. [PATTERN SELECT] が消灯していることを確認します。
点灯していたら、[PATTERN SELECT] を押してボタンを消灯させます。
2. 音量を調節したいサンプルが割り当てられているパッドを押します。
パッドが点灯し、サンプルが鳴ります。このパッドがカレント・パッドになります。
3. [START/END/LEVEL] を押して、ボタンを点灯させます。
4. CTRL 3 (LEVEL) つまみを回して、サンプルの音量を調節します。
左に回すと小さく、右に回すと大きくなります。127 に設定すると最大の音量になります。これは、サンプリングした直後の音量と同じです。
5. [START/END/LEVEL] を押して、ボタンを消灯させます。
音量の設定が完了しました。

メモ

[START/END/LEVEL] が点灯しているときは、音量だけでなく、スタート・ポイント/エンド・ポイント (P.30) も CTRL 1、2 つまみによって変更できます。誤って CTRL 1、2 つまみを動かしてしまったときは、CTRL 1、2 つまみを中央に戻してください。つまみを動かす前の設定に戻ります。中央に戻さないうまま [START/END/LEVEL] を押してボタンを消灯させると、スタート・ポイント/エンド・ポイントが変更された値のまま設定されます。

フレーズを繰り返し鳴らす (ループ再生) / 一度だけ鳴らす (ワン・ショット再生)

数小節のフレーズをサンプリングし、それを繰り返し再生したい場合は、ループ再生にします。

また、ドラム音のように、パッドを押すと1度だけ鳴るようにしたいときは、ワン・ショット再生にします。

1. [PATTERN SELECT] が消灯していることを確認します。
点灯していたら、[PATTERN SELECT] を押してボタンを消灯させます。
2. ループ/ワン・ショット再生を設定したいサンプルが割り当てられているパッドを押します。
パッドが点灯し、サンプルが鳴ります。このパッドがカレント・パッドになります。
3. [LOOP] を押して、ボタンを点灯/消灯させます。
[LOOP] 点灯：ループ再生
[LOOP] 消灯：ワン・ショット再生

パッドを押している間だけサンプルを鳴らす (ゲート再生) / パッドを押し続けなくてもサンプルが鳴るようにする (トリガー再生)

ゲート再生は、パッドを押すと発音し、パッドから指を離すと発音が停止するので、パッドを押している間だけ音が鳴ります。

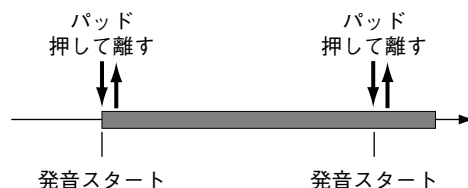


トリガー再生は、パッドを押すと発音し、パッドから指を離してもサンプルが鳴り続きます。

次にパッドを押したときは、ワン・ショット/ループ再生の設定によって動作が変わります。

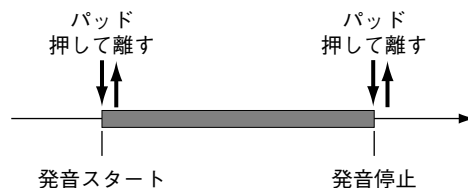
ワン・ショット再生 ([LOOP] が消灯) に設定されている場合：

もう一度サンプルの頭から発音されます。



ループ再生 ([LOOP] が点灯) に設定されている場合：

発音が止まります。



ヒント

長いフレーズを延々と再生し続ける場合は、トリガー再生+ループ再生に設定しておくとういでしょう。また、ドラム音のようなサンプルを鳴らすときは、トリガー再生+ワン・ショット再生に設定しておくとういでしょう。パッドを一瞬押しただけでもサンプルの最後まで発音させることができます。

メモ

サンプリング終了後は、自動的に次のような設定になっています。

BPM 自動計算 (P.33) 後の長さが1小節未満：トリガー再生
BPM 自動計算 (P.33) 後の長さが1小節以上：ゲート再生

ヒント

長いサンプルをトリガー再生+ワン・ショット再生に設定すると、なかなか発音が止まらないことがあります。発音を止めるためには、いったんループ再生に設定を変更した後、そのパッドを押してください。または、[CANCEL] をすばやく4回押しても発音を止めることができます。

第4章 サンプルの設定を変更する

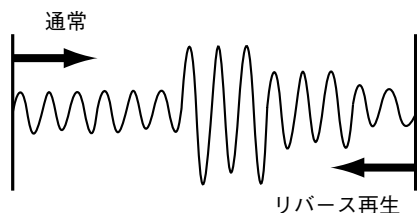
1. [PATTERN SELECT] が消灯していることを確認します。
点灯していたら、[PATTERN SELECT] を押してボタンを消灯させます。
2. ゲート/トリガー再生を設定したいサンプルが割り当てられているパッドを押します。
パッドが点灯し、サンプルが鳴ります。このパッドがカレント・パッドになります。
3. [GATE] を押して、ボタンを点灯/消灯させます。
[GATE] 点灯：ゲート再生
[GATE] 消灯：トリガー再生

メモ

[LOOP] が消灯しているときは、サンプルを終わりまで再生すると、パッドを押し続けていても自動的に再生が止まり、パッドは消灯します。

サンプルを逆方向から鳴らす (リバーズ再生)

リバーズ再生とは、サンプルを逆方向から再生することで、テープを逆回転させたときのような効果を得ることができます。



メモ

タイム・モディファイ (P.33) とリバーズ再生を同時に設定することはできません。リバーズ再生時は、タイム・モディファイの設定が無効になります。

1. [PATTERN SELECT] が消灯していることを確認します。
点灯していたら、[PATTERN SELECT] を押してボタンを消灯させます。
2. リバーズ再生を設定したいサンプルが割り当てられているパッドを押します。
パッドが点灯し、サンプルが鳴ります。このパッドがカレント・パッドになります。
3. [REVERSE] を押して、ボタンを点灯させます。
[REVERSE] 点灯：リバーズ再生
[REVERSE] を押すたびに、リバーズ再生とノーマル再生 ([REVERSE] 消灯) が切り替わります。

メモ

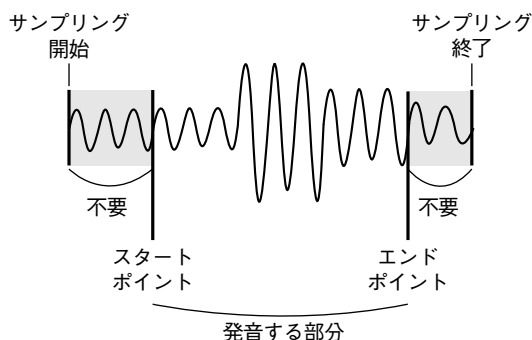
リバーズ再生にすると、スタート・ポイント/エンド・ポイントの関係が逆になります。

不要部分を鳴らさない (マーカー/スタート・ポイント/エンド・ポイント)

SP-404 では、パッドを押したときに、そのサンプルの波形データのどこからどこまでを発音させるか、各サンプルに設定することができます。

波形データの発音開始位置をスタート・ポイント、発音終了位置をエンド・ポイントと呼びます。

サンプリングした音の頭に余分な音や空白が入ってしまったときにはスタート・ポイントを、最後に入ってしまったときはエンド・ポイントを設定することで、必要な部分だけを鳴らすことができるようになります。



参照

スタート・ポイントやエンド・ポイントを設定すると、新たに設定された時間に合わせて自動的に BPM (テンポ) を計算して表示します。設定時間が複数小節や 1 小節に満たない場合、BPM の表示値が半分や 2 倍になることがあります。BPM を希望の値に補正するときは、『サンプルの BPM を変更する』(P.33) をご覧ください。

メモ

設定時間によっては (たとえば 3 拍)、正確な BPM 値を計算/補正できないことがあります。

スタート・ポイント／エンド・ポイント ともに変えたいとき

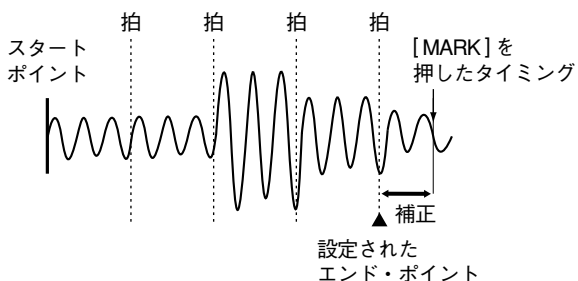
1. [PATTERN SELECT] が消灯していることを確認します。
点灯していたら、[PATTERN SELECT] を押してボタンを消灯させます。
 2. 変更したいサンプルが割り当てられているパッドを押します。
パッドが点灯し、サンプルが鳴ります。このパッドがカレント・パッドになります。
- メモ**
ゲート再生 (P.29) のときは、パッドを押さえ続けます。
3. スタート・ポイントにしたいところで、[MARK] を押します。
[MARK] が点滅し、ディスプレイに "---" と表示されます。
 4. エンド・ポイントにしたいところで、もう一度 [MARK] を押します。
[MARK] が点灯すると、設定は完了します。

メモ

設定がうまくいかなかったときは、発音中に点灯している [MARK] を押してボタンを消灯させ、手順 1 からやり直してください。

メモ

手順 3 と 4 の間で BPM (テンポ) を設定すると、手順 4 で [MARK] を押したタイミングの直近の拍の位置 (スタート・ポイントから BPM 値に合わせた拍単位の位置) にエンド・ポイントが自動的に設定されます。BPM を設定するには、[TIME/BPM] を押してボタンを点灯させてから CTRL 2 つまみを回すか、[TAP TEMPO] を複数回押します。



エンド・ポイントだけ変えたいとき

1. [PATTERN SELECT] が消灯していることを確認します。
点灯していたら、[PATTERN SELECT] を押してボタンを消灯させます。
 2. [MARK] を押しながら、変更したいサンプルが割り当てられているパッドを押します。
パッドが点灯し、サンプルが鳴ります。このパッドがカレント・パッドになります。
- メモ**
ゲート再生 (P.29) のときは、パッドを押さえ続けます。
3. [MARK] から指を離します。
[MARK] が点滅し、ディスプレイに "---" と表示されます。
 4. エンド・ポイントにしたいところで、[MARK] を押します。
[MARK] が点灯すると、設定は完了します。

メモ

設定がうまくいかなかったときは、発音中に点灯している [MARK] を押してボタンを消灯させ、手順 1 からやり直してください。

メモ

手順 3 と 4 の間で BPM (テンポ) を設定すると、手順 4 で [MARK] を押したタイミングの直近の拍の位置 (スタート・ポイントから BPM 値に合わせた拍単位の位置) にエンド・ポイントが自動的に設定されます。BPM を設定するには、[TIME/BPM] を押してボタンを点灯させてから CTRL 2 つまみを回すか、[TAP TEMPO] を複数回押します。

スタート・ポイントだけ変えたいとき (エンド・ポイントはサンプルの終わり)

1. [PATTERN SELECT] が消灯していることを確認します。
点灯していたら、[PATTERN SELECT] を押してボタンを消灯させます。
 2. 変更したいサンプルが割り当てられているパッドを押します。
パッドが点灯し、サンプルが鳴ります。このパッドがカレント・パッドになります。
- メモ**
ゲート再生 (P.29) のときは、パッドを押さえ続けます。
3. スタート・ポイントにしたいところで、[MARK] を押します。
[MARK] が点滅します。
 4. パッドをもう一度押します。(ゲート再生の場合は、パッドから指を離します。)
[MARK] が点灯すると、設定は完了します。

メモ

設定がうまくいかなかったときは、発音中に点灯している [MARK] を押してボタンを消灯させ、手順 1 からやり直してください。

スタート・ポイント／エンド・ポイントを微調整する

1. [PATTERN SELECT] が消灯していることを確認します。
点灯していたら、[PATTERN SELECT] を押してボタンを消灯させます。
2. 変更したいサンプルが割り当てられているパッドを押します。
パッドが点灯し、サンプルが鳴ります。このパッドがカレント・パッドになります。
3. [START/END/LEVEL] を押して、ボタンを点灯させます。
4. CTRL 1 (START) つまみを回します。
中央を現在のスタート・ポイントとして、左に回すと前の方へ、右に回すと後ろの方へスタート・ポイントが移動します。

メモ
スタート・ポイントがサンプルの先頭に設定されている場合は、左に回してもスタート・ポイントは移動しません。

メモ
移動を取り消したいときは、CTRL 1 (START) つまみを中央に戻し、表示が“0”になるようにしてください。
5. CTRL 2 (END) つまみを回します。
中央を現在のエンド・ポイントとして、左に回すと前の方へ、右に回すと後ろの方へエンド・ポイントが移動します。

メモ
エンド・ポイントがサンプルの最後に設定されている場合は、右に回してもエンド・ポイントは移動しません。

メモ
移動を取り消したいときは、CTRL 2 (END) つまみを中央に戻し、表示が“0”になるようにしてください。
6. [START/END/LEVEL] を押して、ボタンを消灯させます。
スタート・ポイント／エンド・ポイントの設定が完了します。

メモ
1回の操作で移動できる範囲は、スタート・ポイント／エンド・ポイントともに前後およそ 130 msec です。これを超えて移動したい場合は、手順 3～6 を必要なだけ繰り返してください。

メモ
スタート・ポイントとエンド・ポイントの間隔を約 100 msec 以下に設定することはできません。

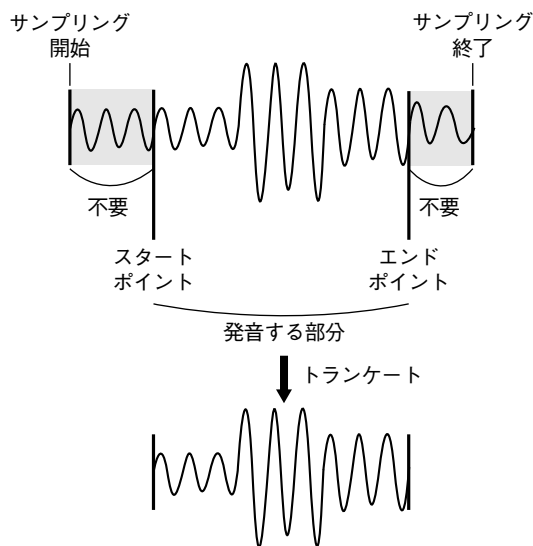
メモ
操作の結果、スタート・ポイント／エンド・ポイントが共にサンプルの先頭／最後になったときは、[MARK] が消灯します。

メモ
[MARK] が消灯しているサンプルのスタート・ポイント／エンド・ポイントを移動すると、[MARK] が点灯します。

メモ
スタート・ポイント／エンド・ポイントを移動すると、それに伴ってサンプルのBPM (テンポ) が自動的に変化します。ただし、BPM にわずかな誤差が生じます。

不要な部分を消去する (トランケート)

スタート／エンド・ポイントを設定すると、不要な波形データが発生します。
この部分を消去 (トランケート) することで、メモリーを効率よく使うことができます。



1. [PATTERN SELECT] が消灯していることを確認します。
点灯していたら、[PATTERN SELECT] を押してボタンを消灯させます。
2. 変更したいサンプルが割り当てられているパッドを押します。
パッドが点灯し、サンプルが鳴ります。このパッドがカレント・パッドになります。
3. スタート・ポイントやエンド・ポイントが設定されている ([MARK] が点灯している) ことを確認します。
4. [DEL] を押して、ボタンを点灯させます。

メモ
このときパッドも点滅しますが、パッドは押さないでください。
5. [MARK] を押します。
[DEL] が点滅に変わり、ディスプレイに“trC”と表示されます。
6. [DEL] を押します。
[DEL] が点灯し、トランケートを実行します。実行中は、ディスプレイのドットが点滅します。

ご注意!
ドットが点滅している間は、絶対に電源を切らないでください。トランケート中のサンプルだけでなく、他のサンプルやメモリー・カードも破壊される恐れがあります。

サンプルの BPM を変更する

サンプルの BPM (テンポ) は、サンプルのスタート・ポイントとエンド・ポイントの間の長さによって自動的に決まります。しかしその長さによっては、BPM の計算値が本来の BPM の半分や 2 倍になることがあります。このような場合は、次の操作で BPM を修正してください。

1. [PATTERN SELECT] が消灯していることを確認します。
点灯していたら、[PATTERN SELECT] を押してボタンを消灯させます。
2. 変更したいサンプルが割り当てられているパッドを押します。
パッドが点灯し、サンプルが鳴ります。このパッドがカレント・パッドになります。
3. [TIME/BPM] を押して、ボタンを点灯させます。
4. CTRL 2 (BPM) つまみを回して、BPM の値を変更します。
表示値を半分にしたいときは左に、倍にしたいときは右に回してください。
5. もう一度 [TIME/BPM] を押して、ボタンを消灯させます。
BPM の設定が完了します。

メモ

[TIME/BPM] が点灯しているときは、BPM だけでなくサンプルの再生時間も CTRL 1 (TIME) つまみで変更できますのでご注意ください。

ピッチを変えずにサンプルの長さを変更する (タイム・モディファイ)

キー (調) は同じでも、テンポが違うようなサンプルをつなげて演奏したい場合、タイム・モディファイ機能を使うとテンポが乱れることなく自然な感じにつながることができます。

メモ

リバース再生 (P.30) が設定されているときは、タイム・モディファイの設定が無効になり、効果がかかりません。タイム・モディファイを使用するときは、リバース再生をオフにしてください。

1. [PATTERN SELECT] が消灯していることを確認します。
点灯していたら、[PATTERN SELECT] を押してボタンを消灯させます。
2. 変更したいサンプルが割り当てられているパッドを押します。
パッドが点灯し、サンプルが鳴ります。このパッドがカレント・パッドになります。
3. [TIME/BPM] を押して、ボタンを点灯させます。
4. CTRL 1 (TIME) つまみを回します。

ディスプレイに表示される BPM の値が変化し、サンプルの長さが変わります。

左に回すとサンプルの長さが長くなり、テンポが遅くなります。右に回すとサンプルの長さが短くなり、テンポが速くなります。

左に回しきるとタイム・モディファイがオフになり、本来の長さで演奏されます。 ("oFF" と表示されます。)

右に回しきるとパターンテンポに応じて演奏されるようになります。 ("Ptn" と表示されます。)

メモ

BPM の可変範囲は、サンプル本来の BPM の半分～約 1.3 倍となります。ただし BPM が 40～200 の範囲を超えることはできません。

メモ

タイム・モディファイが "Ptn" に設定されている場合は、サンプル本来の BPM の半分～約 1.3 倍の範囲にあるパターンテンポに応じて、サンプルのテンポが変わります。パターンテンポが範囲外に設定されている場合、サンプルのテンポは上限値 (200) または下限値 (40) に制限されます。

5. もう一度 [TIME/BPM] を押して、ボタンを消灯させます。
タイム・モディファイの設定が完了します。

メモ

タイム・モディファイを設定したサンプルでは、音が細かく震えて聞こえたり、ノイズが聞こえることがあります。

第5章 サンプルの演奏を記録する (パターン・シーケンサー)

サンプルの演奏操作をパターンとして記録しておく、後からそのまま再生することができます。

フレーズのサンプルをいくつも組み合わせると簡単な曲を作ったり、リズムのサンプルを組み合わせるとリズム・パターンを作ったりするのに便利です。

パターンの構成

[PATTERN SELECT] が点灯している状態では、パネル上のパッド1～12に、それぞれひとつずつパターンを割り当てることができます。パッドに割り当てた12個のパターンをひとまとめにしたものをパターン・バンクと呼び、SP-404ではA～Jの10個のパターン・バンクを使うことができます。パターン・バンクAとBはSP-404の本体(インターナル)メモリーにあるバンク、パターン・バンクC～Jはメモリー・カードにあるバンクです。

メモ

電源投入時は、パターン・バンクAが選ばれています。

[PATTERN SELECT] が点灯しているときは、BANK [A] ～ [F/J] はパターン・バンクを、パッド1～12はパターンを指定するのに使用します。

パターンのテンポを変更する

パターンのテンポは、すべてのパターンに共通の設定です。

ご注意!

パターンごとにテンポを記憶させることはできません。

1. [PATTERN SELECT] を押して、ボタンを点灯させます。
ディスプレイに“Ptn”と表示されます。
 2. [TIME/BPM] を押して、ボタンを点灯させます。
パターンのテンポ(BPM)がディスプレイに表示されます。
- ご注意!**
パターンのテンポがMIDIシーケンサーのテンポに同期している場合(P.42)は“Mid”と表示され、以後の操作を行なうことはできません。
3. CTRL 2 (BPM) つまみを回して、BPMを設定します。
設定したBPMがディスプレイに表示されます。
右に回すとBPMが大きくなり(テンポが速く)なり、左に回すとBPMが小さくなり(テンポが遅く)なります。
設定範囲: 40～200

メモ

BPMが40～60、160～180のときは、偶数の値のみ設定することができます。
BPMが180～200のときは、180、183、186、190、193、196、200のいずれかに設定することができます。

4. [TIME/BPM] を押して、ボタンを消灯させます。
BPMの設定が完了します。

CDやターンテーブルのテンポに合わせる

CDやターンテーブルの演奏に合わせて[TAP TEMPO]を押すことで、パターンのテンポを設定することができます。

[TAP TEMPO]を一定の間隔で叩くと、その間隔を4分音符とみなしたBPMが設定され、値がディスプレイに表示されます。

パターンの再生を止める

いったん再生が始まると、パッドから指を離れた後もパターンは再生を続けます。

再生中のパターンを止めるときは、[CANCEL] (PATTERN STOP) を押します。

ヒント

[PATTERN SELECT] が点灯し、ディスプレイに“Ptn”と表示されているときは、点灯しているパッド(再生中のパターン)を押しても、パターンの再生を止めることができます。

再生中にパターンを切り替える

1. [PATTERN SELECT] を押して、ボタンを点灯させます。
ディスプレイに“Ptn”と表示され、パターンが割り当てられているパッドが点滅します。
2. BANK [A] ～ [F/J] のいずれかを押しボタンを点灯させ、切り替えたいパターンのバンクを選びます。
バンクG～Jを選ぶときは、BANK [C/G] ～ [F/J] をもう一回押して、ボタンを点滅させます。

メモ

メモリー・カードが挿入されていないときは、パターン・バンクC～Jを選ぶことはできません。

3. 切り替えたいパターンのパッドを押します。
パターンの再生中に別のパッドを押すと、次に再生するパターンとして予約されます。現在再生中のパターンを最後まで演奏すると、予約したパターンの再生が自動的に始まります。

ヒント

[SUB PAD] を押しながらパッドを押すと、そのパッドのパターンへすぐに切り替わります。

メモ

パターンが割り当てられていない(消灯している)パッドを押しても無視されます。

パターンを録音する

サンプルの演奏をパターンに録音するときは、録音を停止するまでの間、指定した長さの小節数を繰り返し録音(ループ・レコーディング)しますので、サンプルの演奏を順番に重ねていく(オーバーダビング)することができます。

1. [PATTERN SELECT] を押して、ボタンを点灯させます。
ディスプレイに“Ptn”と表示され、パターンが割り当てられているパッドが点滅します。
- ご注意!**
[PATTERN SELECT] が消灯していると、サンプリングになってしまいます。
2. [REC] を押して、ボタンを点灯させます。
パターンが割り当てられていないパッドがすべて点滅します。
 3. BANK [A] ～ [F/J] のいずれかを押し、録音したいパターン・バンクを選びます。

メモ

メモリー・カードが挿入されていないときは、パターン・バンクC～Jを選ぶことはできません。

4. 録音するパターンを割り当てたいパッドを押します。
 押したパッドが点灯し、他のパッドは消灯します。
 [REC] が点滅し、メトロノームが鳴り始めます。
5. [START/END/LEVEL] を押して、ボタンを点灯させます。
6. CTRL 3 (LEVEL) つまみを回して、メトロノームの音量を調節します。
7. [TIME/BPM] を押して、ボタンを点灯させます。
 パターンのテンポ (BPM) がディスプレイに表示されます。
8. メトロノームを聴きながら CTRL 2 (BPM) つまみを回し、パターンのテンポを調節します。
 設定範囲：40～200

メモ

BPM が 40～60、160～180 のときは、偶数の値のみ設定することができます。
 BPM が 180～200 のときは、180、183、186、190、193、196、200 のいずれかに設定することができます。

ヒント

[TAP TEMPO] を複数回押すことでもテンポを設定することができます。[TAP TEMPO] を使った場合は、40～200 の範囲内で任意の値に BPM を設定することができます。

9. [LENGTH] を押して、ボタンを点灯させます。
 録音するパターンの長さが、小節数でディスプレイに表示されます。
10. CTRL 3 つまみを回して、パターンの長さを設定します。
 設定されたパターンの長さの値がディスプレイに表示されません。
 設定範囲：1～99

メモ

すでにデータがあるパターンは、現在の長さよりも短くすることはできません。
 1～20 小節までは 1 小節単位、それを超える長さの場合は 4 小節単位で設定することができます。

11. [QUANTIZE] を押して、ボタンを点灯させます。
 [LENGTH] が消灯します。
 ディスプレイにクオンタイズの設定値が表示されます。

用語

クオンタイズとは
 パッドを押してサンプルを演奏させると、どうしてもタイミングにばらつきが生じてしまいますが、このばらつきを自動的に正確なタイミングに補正して録音する機能がクオンタイズです。クオンタイズを設定しておく、4分音符、8分音符、16分音符などの正確なタイミングに発音をそろえて録音することができます。特にグループ系の音楽などでジャストなタイミングを作るのに便利です。また、リズム・パターンを作るときにも便利です。

12. CTRL 3 つまみを回して、クオンタイズを設定します。
 設定したクオンタイズがディスプレイに表示されます。
 表示の意味は次のとおりです。
- 4： 4分音符のタイミングにそろえます。
 - 4-3： 3連4分音符のタイミングにそろえます。
 - 8： 8分音符のタイミングにそろえます。
 - 8-3： 3連8分音符のタイミングにそろえます。
 - 16： 16分音符のタイミングにそろえます。
 - 16-3： 3連16分音符のタイミングにそろえます。
 - 32： 32分音符のタイミングにそろえます。

OFF：クオンタイズを行いません。パッドを押したタイミングそのままに録音されます。

13. [QUANTIZE] を押して、ボタンを消灯させます。
14. [REC] を押します。

[REC] の点滅が点灯に変わり、録音が始まります。
 実際に録音が始まるまで 1 小節のカウントが入りますので、メトロノームを聴きながら 1 小節分待ちます。このとき、拍に合わせて -4、-3、-2、-1 とカウントがディスプレイに表示されます。
 カウントが終わると録音が始まり、ディスプレイに小節と拍が表示されます。

メモ

カウントの間に演奏されたパッドは録音されません。

15. 録音したいタイミングでパッドを押します。

録音中は、パッドでサンプルを演奏することができるようになってきます。また、バンク・ボタンを押してサンプル・バンクを切り替えることもできます。

押されたパッドのサンプルが鳴り、クオンタイズで設定したタイミングに補正されて録音されます。

ディスプレイに表示された小節数がパターンの長さの設定値を超えると、自動的に 1 小節目に戻って録音が続きます。(ループ・レコーディング)

このとき、すでに録音した演奏が再生されます。

ヒント

もう一度 [REC] を押してボタンを点滅させると、ディスプレイに「rEH」と表示され、リハーサル状態になります。このとき、パッドを押すとサンプルの音が鳴りますが、録音されません。さらにもう一度 [REC] を押してボタンを点灯させると、リハーサル状態が解除され、通常の録音状態に戻ります。次に録音するサンプルの音を確認するのに便利です。

16. さらに録音したいサンプルのパッドを押します。

前回録音したパッドの演奏と今回押したパッドの演奏が重ねて録音 (オーバーダビング) されます。いくつもサンプルを重ねたい場合や一度に録音することができない複雑な演奏でも、何回にも分けて録音することができます。

途中でクオンタイズを変更したいときは

1. [QUANTIZE] を押して、ボタンを点灯させます。
2. CTRL 3 つまみを回して、クオンタイズの設定を変更します。
3. 設定後、[QUANTIZE] を押してボタンを消灯させます。
 クオンタイズが設定され、その設定はすぐにパターンの録音へ反映されます。

17. 録音を終了させたいタイミングで、[CANCEL] を押します。

ディスプレイのドットが点滅します。点滅が消えると、録音は完了します。

ご注意!

ドットが点滅している間は、絶対に電源を切らないでください。録音したパターンだけでなく他のパターンやメモリー・カードも破壊される恐れがあります。

間違った演奏データを消去する

間違って録音したサンプルの演奏を、サンプルのパッドを指定して消去することができます。

1. [PATTERN SELECT] を押して、ボタンを点灯させます。
ディスプレイに“Ptn”と表示されます。
パターンが割り当てられているパッドが点滅します。
ご注意!
[PATTERN SELECT] が消灯していると、サンプリングになってしまいます。
2. [REC] を押して、ボタンを点灯させます。
3. 消去したい演奏が録音されているパターンのパッドを押します。
押されたパッドが点灯し、他のパッドは消灯します。
[REC] が点滅し、メトロノームが鳴り始めます。
4. [REC] を押します。
[REC] の点滅が点灯に変わり、録音が始まります。
録音されている演奏が再生されます。
ご注意!
このとき、サンプルのパッドを押すと、その演奏が録音されてしまいます。
5. [DEL] を押して、ボタンを点灯させます。
ディスプレイに“ErS”と表示されます。
6. 消去したいサンプルのパッドを、消去したいタイミングで押します。
パッドを押している間、ディスプレイのドットが点滅し、そのパッドの演奏が消去されます。
ヒント
[HOLD] を押している間は、すべてのパッドの演奏を消去することができます。
7. 必要に応じて、手順 6 を繰り返します。
8. 消去を終了するときは、[DEL] を押します。
[DEL] が消灯し、パターンは通常の録音状態に戻ります。
ご注意!
このとき、サンプルのパッドを押すと、その演奏が録音されてしまいます。
9. [CANCEL] を押します。
ディスプレイのドットが点滅します。点滅が消えると、消去は完了します。
ご注意!
ドットが点滅している間は、絶対に電源を切らないでください。録音したパターンだけでなく他のパターンやメモリー・カードも破壊される恐れがあります。

パターンを消去する

1. [PATTERN SELECT] を押して、ボタンを点灯させます。
ディスプレイに“Ptn”と表示されます。
録音されているパッドが点滅します。
ご注意!
[PATTERN SELECT] が消灯していると、サンプルの消去 (P.27) になってしまいます。
2. [DEL] を押して、ボタンを点灯させます。
ディスプレイに“dEL”と表示されます。
メモ
ある 1 つのバンクのすべてのパッドにパターンが割り当てられていない場合、ディスプレイに“EMP”と表示され、消去を行なうことはできません。
3. バンク・ボタンとパッドを押して、消去するパターンのバンクとパッドを指定します。
選んだパッドが点灯し、[DEL] が点滅します。
パターンが割り当てられていない (消灯している) パッドを押しても無視されます。
ヒント
同じバンク内であれば、複数のパッドを同時に選ぶことができます。
メモ
プロテクト (P.43) がかかっているバンクを指定すると、“Prt” (Protected) と表示され、消去することはできません。
メモ
消去を中止するときは、[CANCEL] を押します。
4. [DEL] を押します。
[DEL] の点滅が点灯に変わり、ディスプレイのドットが点滅します。
ドットの点滅が消えると、消去は完了します。
ご注意!
ドットが点滅している間は、絶対に電源を切らないでください。消去しているパターンだけでなく他のパターンやメモリー・カードも破壊される恐れがあります。

パターンをまとめて消去する

本体（インターナル）メモリーまたはメモリー・カードのパターンをまとめて消去することができます。

1. **[PATTERN SELECT]** を押して、ボタンを点灯させます。
ディスプレイに“Ptn”と表示されます。
録音されているパッドが点滅します。
ご注意!
[PATTERN SELECT] が消灯しているとき、サンプルの消去 (P.27) になってしまいます。
2. **[CANCEL]** を押しながら **[DEL]** を押します。
ディスプレイに“dAL”と表示され、[DEL] が点灯します。
BANK [A] ~ [F/J] が点滅します。
メモ
メモリー・カードがスロットに挿入されていないときは、BANK [C/G] ~ [F/J] は点滅しません。
3. **バンク・ボタンを1つ押しして、消去するメモリーを指定します。**
BANK [A] または [B] : 本体メモリー
BANK [C/G] ~ [F/J] : メモリー・カード
メモ
プロテクト (P.43) がかかっていると、“Prt” (Protected) と表示され、消去することはできません。
メモ
消去を中止するときは、[CANCEL] を押します。
4. **[DEL]** を押します。
[DEL] の点滅が点灯に変わり、ディスプレイのドットが点滅します。
ドットの点滅が消えると、消去は完了します。
ご注意!
ドットが点滅している間は、絶対に電源を切らないでください。消去しているパターンだけでなく他のパターンやメモリー・カードも破壊される恐れがあります。

パッドへのパターンの割り当てを変更する

2つのパッドの間でパターンを入れ替えることによって、パッドへのパターンの割り当てを変更することができます。
録音済みのパターンが割り当てられたパッドと、パターンが割り当てられていないパッドとの間でも入れ替えることができます。

1. **[PATTERN SELECT]** を押して、ボタンを点灯させます。
ディスプレイに“Ptn”と表示されます。
ご注意!
[PATTERN SELECT] が消灯しているとき、サンプルの入れ替え (P.28) になってしまいます。
2. **[DEL]** を押しながら **[REC]** を押します。
[DEL] と [REC] が点灯し、ディスプレイに“CHG”と表示されます。
パターンが割り当てられているパッドが点滅します。
3. **入れ替える一方のパターンを、バンク・ボタンおよびパッドを押しして選びます。**
パッドが点灯します。
4. **入れ替えるもう一方のパターンを、バンク・ボタンおよびパッドを押しして選びます。**
パッドが点灯し、[REC] が点滅します。
5. **[REC]** を押します。
[DEL] と [REC] が点灯し、ディスプレイのドットが点滅します。
点滅が消えると、入れ替えは完了します。
ご注意!
本体（インターナル）メモリーのパターンとメモリー・カードのパターンを入れ替える場合、本体（インターナル）メモリーとメモリー・カードに十分な空き容量がないと“FUL”と表示され、入れ替えることはできません。
ご注意!
ドットが点滅している間は、絶対に電源を切らないでください。入れ替え中のパターンだけでなく、他のパターンやメモリー・カードを破壊する恐れがあります。

第6章 メモリー・カードを使う

ご注意!

メモリー・カードの抜き挿しは、必ず SP-404 の電源を切った状態で行ってください。電源を入れたまま行くと、メモリー・カードのデータが壊れたり、メモリー・カードが使えなくなったりする恐れがあります。

ご注意!

メモリー・カードは挿入方向や表裏に注意し、確実に奥まで差し込んでください。また無理な挿入はしないでください。

ご注意!

初めてメモリー・カードを使用するときは、必ず SP-404 でフォーマットしてください。別の機器でフォーマットしたメモリー・カードは、SP-404 で認識されません。

参照

メモリー・カードを抜き挿しするときは、『メモリー・カードを挿す/抜く』(P.11) をご覧ください。

参照

推奨するメモリー・カードについては、資料の『推奨するメモリー・カードについて』(P.50) をご覧ください。

メモリー・カードをフォーマット(初期化)する

ご注意!

メモリー・カードをフォーマットすると、カード内のデータはすべて消去されます。

1. [CANCEL] を押しながら [REMAIN] を押します。

BANK [C/G] ~ [F/J] が点滅し、ディスプレイには“FMT”と表示されます。

2. BANK [C/G] ~ [F/J] のいずれかを押します。

BANK [C/G] ~ [F/J] が点灯に変わり、[DEL] が点滅します。

メモ

フォーマットを中止するときは、[CANCEL] を押します。

3. [DEL] を押します。

[DEL] が点灯し、フォーマットが実行されます。フォーマット実行中は、ディスプレイのドットが点滅します。点滅が消えると、フォーマットは完了します。

ご注意!

ドットが点滅している間は、絶対に電源を切らないでください。メモリー・カードが破壊されて使用できなくなる恐れがあります。

ご注意!

メモリー・カードをフォーマットしたときに作成されたファイルやフォルダを変更/削除しないでください。SP-404 で正しく認識されなくなります。

オーディオ・ファイルのインポート

オーディオ・ファイルをメモリー・カードから読み込みます。

オーディオ・ファイル (WAV/AIFF) をインポートするときの注意

- コンピューターなどの機器を使って、メモリー・カードにオーディオ・ファイル (WAV/AIFF) をコピーまたは保存するときは、メモリー・カードのルート (1 番上の階層) に置いてください。ルート以外にファイルを置くと、SP-404 へインポートすることはできません。
- インポートするとき、認識できるオーディオ・ファイルの数は、最大 120 個です。
- ファイル名の先頭の文字に「.」は使えません。一部の文字 (¥ / : ; * ? " < > |) もファイル名に使えません。
- WAV ファイルの拡張子は WAV、AIFF ファイルの拡張子は AIF にしてください。それ以外の拡張子のときはファイルを認識することができません。
- ファイル名のアスキー・コード順にオーディオ・ファイルをインポートします。
- サンプル・ビットは、8 または 16 ビットのみに対応しています。
- サンプル・レートの変換は行いません。サンプル・レート 44.1kHz としてインポートされます。サンプル・レート 44.1kHz 以外のファイルをインポートしたときは、再生ピッチに違いが生じます。
- AIFF ファイルのループ・ポイントの設定は無効になります。
- SP-404 に適合しない形式の WAV/AIFF をインポートしようとするとき“UnS” (Unsupported) とエラー・メッセージが表示され、インポートすることはできません。
- 圧縮されたオーディオ・ファイルをインポートすることはできません。
- 極端に時間が短いオーディオ・ファイルは、インポートできない場合があります。
- インポートにかかる時間は、オーディオ・ファイルを再生したときの実時間と同じくらいかかります。
- 一度インポートし始めたら、途中でキャンセルできません。

1. [PATTERN SELECT] が消灯していることを確認します。

点灯していたら、[PATTERN SELECT] を押してボタンを消灯させます。

2. [CANCEL] を押しながら [RESAMPLE] を押します。

ディスプレイに“FIL” (File I/E) と表示され、[REC] と [RESAMPLE] が点滅します。

3. [REC] を押します。

ディスプレイに“iMP” (File Import) と表示され、[REC] が点灯して [RESAMPLE] が消灯します。

パッド [1] ~ [12] が点滅します。

メモ

メモリー・カードのルートにオーディオ・ファイルがない場合は、“EMP” (Empty) と表示され、インポートはできません。

4. インポート先のサンプル・バンクを選びます。

BANK [A] ~ [F/J] のいずれかを押します。押したボタンが点灯し、そのバンク (A ~ F) に切り替わります。BANK [C/G] ~ [F/J] をもう 1 回押すと、ボタンが点滅に変わり、バンク G ~ J に切り替わります。

5. インポート先のパッドを選びます。

押したパッドが点灯し、その他のパッドの点滅が消えます。[REC] も点滅します。

ご注意!

選んだパッド (ファイルが複数の場合は、それ以降のパッド) にサンプルが割り当てられていても、上書きされます。

メモ

プロテクト (P.43) がかかっているパッドを指定すると、“Prt” (Protected) と表示され、インポートはできません。

6. [REC] を押して、ボタンを点灯させます。

ファイルが複数ある場合は、手順 5 で選んだパッドを先頭ににして、ファイル名順にインポートされます。

インポート中は、ディスプレイのドットが点滅します。点滅が消えると、インポートは完了します。

オーディオ・ファイルのエクスポート

オーディオ・ファイルの種類を決める

工場出荷時は、WAV ファイルでエクスポートします。オーディオ・ファイルの種類を変えたいとき、次の操作を行います。

1. [RESAMPLE] を押しながら、電源を入れます。
2. [PATTERN SELECT] を押して、WAV/AIF を切り替えます。
このボタンを押すたびに、ディスプレイの“WAV” (WAV) と“AIF” (AIFF) の表示が切り替わります。
3. [RESAMPLE] を押して、ファイルの種類を決めます。

メモ

電源を切った後も、この設定は変わりません。

サンプルをオーディオ・ファイルにエクスポートする

サンプルをオーディオ・ファイルに変換して、メモリー・カードへ書き出します。

1. [PATTERN SELECT] が消灯していることを確認します。
点灯していたら、[PATTERN SELECT] を押してボタンを消灯させます。
2. [CANCEL] を押しながら [RESAMPLE] を押します。
ディスプレイに“FIL” (File I/E) と表示され、[REC] と [RESAMPLE] が点滅します。
3. [RESAMPLE] を押します。
ディスプレイに“EXP” (File Export) と表示され、[REC] が点灯して [RESAMPLE] が消灯します。
4. エクスポート元のサンプル・バンクを選びます。
BANK [A] ~ [F/J] のいずれかを押します。押したボタンが点灯し、そのバンク (A ~ F) に切り替わります。BANK [C/G] ~ [F/J] をもう 1 回押すと、ボタンが点滅に変わり、バンク G ~ J に切り替わります。
サンプルが割り当てられているパッドが点滅します。
5. エクスポート元のパッドを選びます。
押したパッドが点灯し、その他のパッドの点滅が消えます。[REC] も点滅します。

ヒント

同じサンプル・バンクに限り、複数のパッドを選ぶことができます。手順 4 で点滅していたパッドを押して点灯させると、それらのパッドを選ぶことができます。

6. [REC] を押して、ボタンを点灯させます。
エクスポート中は、ディスプレイのドットが点滅します。点滅が消えると、エクスポートは完了します。

ご注意!

メモリー・カードのルートに同じ名前のオーディオ・ファイルがあっても、上書きされます。

エクスポートしたオーディオ・ファイル (WAV/AIFF) の見えかた

メモリー・カードにエクスポートしたオーディオ・ファイル (WAV/AIFF) は、メモリー・カードのルート (1 番上の階層) にあります。

コンピューターなどの機器を使ってメモリー・カードのルートを見ると、エクスポートしたオーディオ・ファイル (WAV/AIFF) のファイル名は以下のように見えます。

サンプル・バンク A のパッド 1 のサンプルをエクスポートした場合:

WAV : A_01.WAV

AIFF : A_01.AIF

サンプル・バンク E のパッド 6 ~ 12 のサンプルをエクスポートした場合:

WAV : E_06.WAV ~ E_12.WAV

AIFF : E_06.AIF ~ E_12.AIF

バックアップ・データを保存する (バックアップ・セーブ)

バックアップ・データ (サンプル・バンクやパターン・バンクを含む本体の設定すべてのデータ) をメモリー・カードに保存します。最大 12 個まで保存できます。

ご注意!

サンプルやパターンを多く保存してカードの容量が不足すると、保存できるバックアップ・データの数は減少します。

1. [CANCEL] を押しながら、BANK [C/G] ~ [F/J] のいずれかを押しします。
ディスプレイに“SAV”と表示され、バックアップ・データが保存されていないパッドが点滅します。
2. 保存先のパッドを 1 つ選びます。
選んだパッドが点灯し、他のパッドの点滅は消えます。
[REC] が点滅します。

メモ

手順 1 で消灯している (データが保存されている) パッドを選ぶことはできません。

メモ

中止するときは、[CANCEL] を押しします。

3. [REC] を押しします。
[REC] が点灯し、バックアップ・セーブが実行されます。実行中は、ディスプレイのドットが点滅します。点滅が消えると、バックアップ・セーブは終了します。

ご注意!

ドットが点滅している間は、絶対に電源を切らないでください。バックアップ・データやメモリー・カードが破壊される恐れがあります。

バックアップ・データを読み込む (バックアップ・ロード)

バックアップ・データ (サンプル・バンクやパターン・バンクを含む本体の設定すべてのデータ) をメモリー・カードから読み込みます。

ご注意!

バックアップ・ロードを実行すると、本体内の設定が消えて読み込んだバックアップ・データに置き替わります。

1. [CANCEL] を押しながら、BANK [A] または [B] を押しします。
ディスプレイに“Lod”と表示され、バックアップ・データが保存されているパッドが点滅します。
- #### メモ
- プロテクト (P.43) がかかっていると、“Prt” (Protected) と表示され、バックアップ・ロードはできません。
2. パッドを 1 つ押して、読み込むバックアップ・データを選びます。
選んだパッドが点灯し、他のパッドの点滅は消えます。
[REC] が点滅します。

メモ

手順 1 で消灯している (データが保存されていない) パッドを選ぶことはできません。

メモ

中止するときは、[CANCEL] を押しします。

3. [REC] を押しします。
[REC] が点灯し、バックアップ・ロードが実行されます。実行中は、ディスプレイのドットが点滅します。点滅が消えると、バックアップ・ロードは終了します。

ご注意!

ドットが点滅している間は、絶対に電源を切らないでください。本体内のデータやメモリー・カードが破壊される恐れがあります。

バックアップ・データを削除する (バックアップ・デリート)

メモリー・カード上にあるバックアップ・データ (サンプル・バンクやパターン・バンクを含む本体の設定すべてのデータ) を削除します。

1. [DEL] を押しながら、BANK [C/G] ~ [F/J] のいずれかを押しします。
ディスプレイに“bdL”と表示され、バックアップ・データが保存されているパッドが点滅します。
2. パッドを 1 つ押して、削除するバックアップ・データを選びます。
選んだパッドが点灯し、他のパッドの点滅は消えます。
[DEL] が点滅します。

メモ

手順 1 で消灯している (データが保存されていない) パッドを選ぶことはできません。

メモ

中止するときは、[CANCEL] を押しします。

3. [DEL] を押しします。
[DEL] が点灯し、バックアップ・デリートが実行されます。実行中は、ディスプレイのドットが点滅します。点滅が消えると、バックアップ・デリートは終了します。

ご注意!

ドットが点滅している間は、絶対に電源を切らないでください。バックアップ・データやメモリー・カードが破壊される恐れがあります。

第7章 その他の機能について

他の MIDI 機器と組み合わせる

MIDI について

MIDI は、Musical Instrument Digital Interface (ミュージカル・インストゥルメント・デジタル・インターフェース) の略で、電子楽器やコンピューターなどの間で演奏情報などをやりとりすることができる統一規格です。SP-404 は MIDI 規格に対応し、MIDI IN コネクターを備えています。このコネクターを使って他の MIDI 機器と接続することで、いろいろな応用が可能になります。

SP-404 の MIDI IN コネクターは、接続した他の MIDI 機器からの MIDI 情報を受信します。

参照

『MIDI インプリメンテーション・チャート』(P.51) は、SP-404 が受信できる MIDI メッセージを簡単に確認できる表です。他の MIDI 機器と SP-404 の MIDI インプリメンテーション・チャートを確認し、対応している MIDI メッセージをお使いください。

SP-404 の MIDI 概要

外部 MIDI 機器を使って SP-404 の各パッドを鳴らすときは、以下のノート・ナンバーを送信してください。

Note	Note#	MIDI Ch	
		Pad Base Ch	Pad Base Ch + 1
A2#	46 (0x2E)	EXT SOURCE	
B2	47 (0x2F)	[A] Pad 1	
⋮	⋮	⋮	
A3#	58 (0x3A)	Pad 12	
B3	59 (0x3B)	[B] Pad 1	
⋮	⋮	⋮	
A4#	70 (0x46)	Pad 12	
B4	71 (0x47)	[C] Pad 1	[G] Pad 1
⋮	⋮	⋮	⋮
A5#	82 (0x52)	Pad 12	Pad 12
B5	83 (0x53)	[D] Pad 1	[H] Pad 1
⋮	⋮	⋮	⋮
A6#	94 (0x5E)	Pad 12	Pad 12
B6	95 (0x5F)	[E] Pad 1	[I] Pad 1
⋮	⋮	⋮	⋮
A7#	106 (0x6A)	Pad 12	Pad 12
B7	107 (0x6B)	[F] Pad 1	[J] Pad 1
⋮	⋮	⋮	⋮
A8#	118 (0x76)	Pad 12	Pad 12

ヒント

MIDI Ch を変更したいときは、Pad Base Ch を変更してください。

MIDI チャンネル (Pad Base Ch) を変更する

外部 MIDI 機器を使って SP-404 の各パッドを鳴らすときのチャンネル (パッド・ベース・チャンネル) を設定します。

1. 下記の表を参照して設定したいチャンネルに合うパッドを1つ押しながら、電源を入れます。

チャンネル	ディスプレイ	パッド
1	C. 1	1
⋮	⋮	⋮
12	C.12	12
13	C.13	HOLD
14	C.14	EXT SOURCE
15	C.15	SUB PAD

メモ

電源を切った後も、この設定は変わりません。

外部 MIDI 機器に同期させる

1. [TIME/BPM] を押しながら、電源を入れます。

MIDI 同期モードがディスプレイに表示されます。MIDI 同期モードに応じて、同期の動作が変わります。

MIDI 同期モード	説明
“Aut” (Auto Sync)	MIDI クロックが入ると自動的に検出してテンポ同期します。また、MIDI スタート/ストップ/コンティニューを受信してパターンを演奏開始/停止します。 ※パターンの録音中は、MIDI スタート/ストップ/コンティニューを受信しません。
“tMp” (Tempo Sync)	MIDI クロックが入ると自動的に検出してテンポ同期します。なお、MIDI スタート/ストップ/コンティニューを受信しません。 ※外部 MIDI シーケンサーから送信される演奏に合わせて、SP-404 のパターンを後から好きなタイミングで演奏し、2つの演奏を重ねたいような場合を選びます。
“oFF” (Sync OFF)	MIDI クロック/スタート/ストップ/コンティニューを受信しません。 ※外部 MIDI シーケンサーから送信されるノート情報によって、SP-404 のサンプルだけを鳴らしたいときを選びます。

2. CTRL 1 (TIME) つまみを回して、MIDI 同期モードを選びます。

メモ

工場出荷時は、“Aut” に設定されています。

3. [TIME/BPM] を押し、ボタンを消灯させます。

MIDI 同期モードの設定が完了します。

メモ

電源を切った後も、この設定は変わりません。

パターンのテンポと演奏開始/停止を外部 MIDI シーケンサーに同期させる

工場出荷時の SP-404 (MIDI 同期モードが “Aut”) は、外部 MIDI シーケンサーをそのまま接続し、パターンの演奏開始/停止およびテンポを外部 MIDI シーケンサーからコントロールすることができます。

1. 外部 MIDI シーケンサーの MIDI OUT コネクターと SP-404 の MIDI IN コネクターを、MIDI ケーブルで接続します。

2. [PATTERN SELECT] を押して、ボタンを点灯させます。

3. BANK [A] ~ [F/J] のいずれかを押して、演奏させたいパターンのバンクを選びます。

BANK [C/G] ~ [F/J] をもう 1 回押してボタンを点滅させると、パターン・バンク G ~ J を選ぶことができます。

メモ

メモリー・カードが挿入されていないときは、パターン・バンク C ~ J を選ぶことはできません。

4. [HOLD] を押しながら、演奏させたいパターンのパッドを押します。(パターンの指定)

指定したパターンのパッドが点灯します。

ご注意!

[HOLD] を押さずにパッドだけを押すと、いきなりパターンの演奏が始まってしまいます。

5. 外部 MIDI シーケンサーをスタートさせます。

外部 MIDI シーケンサーに同期して、指定したパターンの演奏が始まります。

パターンのテンポは、外部 MIDI シーケンサーのテンポに同期します。

6. 外部 MIDI シーケンサーをストップさせると、パターンの演奏が止まります。

メモ

外部 MIDI シーケンサーをスタートさせてもパターンの演奏が始まらない場合、またはテンポが外部 MIDI シーケンサーに同期しない場合は、外部 MIDI シーケンサーから MIDI クロックやスタート/コンティニュー/ストップが送信されていない可能性があります。

外部 MIDI シーケンサーの取扱説明書をご覧になり、外部 MIDI シーケンサーの設定を確認してください。

ディスプレイ・イルミネーションの点滅の速さを調節する

ディスプレイの周りを青く照らすイルミネーションの速さを調節することができます。

1. [TAP TEMPO] を押しながら、電源を入れます。
ディスプレイに “LED” と表示されます。

2. CTRL 1 つまみを回して、速さを調節します。
つまみを回すと、[REC] が点滅します。

設定	説明
“oFF”	点滅しません。 ※パターン再生中も、点滅しません。
“1 ~ 9”	点滅の速さを一定にします。数値を大きくするほど速く点滅します。 ※パターン再生中は、パターンのテンポに同期して点滅します。
“Ptn”	パターンのテンポに同期して点滅します。

3. [REC] を押して、点滅の速さを決定します。

メモ

中止するときは、[CANCEL] を押します。

メモ

電源を切った後も、この設定は変わりません。

電池の残り容量を確認する

1. [PATTERN SELECT] が消灯していることを確認します。

点灯していたら、[PATTERN SELECT] を押してボタンを消灯させます。

2. [REMAIN] を押します。

押している間、BANK [A] ~ [F/J] の点灯で残り容量が表示されます。

BANK [A] ~ [F/J] 点灯: 電池の残り容量は十分あります。

BANK [A] ~ [E/I] 点灯: 電池が消耗するにつれて、ボタンが 1 つずつ消灯していきます。

BANK [A] のみ点灯: 電池を交換してください。その後しばらくすると、ディスプレイに “Lo” と表示され、SP-404 の操作ができなくなります。

メモ

AC アダプターを接続して電源を入れている場合、BANK [A] ~ [F/J] がすべて点灯します。

ヒント

電池の残り容量が非常に少なくなると、ディスプレイ・イルミネーションが青色に点灯したままになり、ディスプレイ右下のドットが短い間隔と長い間隔で交互に点滅します。

プロテクトをかける

サンプルやパターンが誤って書き換えられたり消去されたりしないようにするため、プロテクトをかけることができます。

すべてのサンプルやパターンにプロテクトをかける

1. [REMAIN] を押しながら、電源を入れます。

ディスプレイに“P.on”と表示され、バンク A～J のサンプルやパターンにプロテクトがかかります。

ご注意!

同一の SP-404 でメモリー・カードを使うときは、カードのバンクにプロテクトがかかっていますが、他の機器やコンピューターなどで同じメモリー・カードを使うと、そのカードのバンクにプロテクトはかかりません。

メモ

電源を切った後も、この設定は変わりません。

プリセットのサンプルやパターン (サンプル・バンク A、パターン・バンク A) にプロテクトをかける

1. BANK [A] と [REMAIN] を押しながら、電源を入れます。

ディスプレイに“A.on”と表示され、バンク A のサンプルやパターンにプロテクトがかかります。

メモ

電源を切った後も、この設定は変わりません。

メモ

工場出荷時は、サンプル・バンク A、パターン・バンク A にプロテクトがかかっています。

メモ

工場出荷時、サンプル・バンク B のパッド 1、2 にサンプルが割り当てられていますが、これらのサンプルにはプロテクトがかかっていません。

プロテクトを解除する

1. [CANCEL] を押しながら、電源を入れます。

ディスプレイに“P.oF”と表示され、バンク A～J のサンプルやパターンのプロテクトが解除されます。

ご注意!

工場出荷時のサンプルやパターンのプロテクトが解除されます。それらを消去したり設定を変更したりすると、工場出荷時の状態に復帰させることはできません。(P.12)

メモ

電源を切った後も、この設定は変わりません。

本体 (インターナル) メモリーを初期化する

ご注意!

この操作を行うと、インターナル・メモリー (バンク A、B) にあるサンプルやパターンのデータはすべて消去されます。

ご注意!

工場出荷時のサンプルやパターンを復帰させることはできません。(P.12)

メモ

プロテクトがオンになっている場合、初期化することはできません。(ディスプレイに“Prt”と表示されます。)

1. [CANCEL] [REMAIN] [DEL] を押しながら、電源を入れます。

ディスプレイに“ini”と表示され、[REC] が点滅します。

メモ

中止するときは、そのまま電源を切ってください。

2. 初期化してもよいときは、[REC] を押します。

[REC] が点灯し、ディスプレイのドットが点滅します。点滅が消えると、初期化は完了します。

ご注意!

ドットが点滅している間は、絶対に電源を切らないでください。データが破壊される恐れがあります。

メモ

初期化の後には、プロテクトが解除されたままになっています。

バージョン情報を確認する

1. [MARK] を押しながら、電源を入れます。

ディスプレイにバージョン情報が表示されます。

メモ

[CANCEL] を押すと、通常の状態になります。

SP-404 の内部処理レベルを設定する

内部処理における SP-404 全体の音量を調節します。

1. [CANCEL] を押しながら [START/END/LEVEL] を押しのままの状態、CTRL 3 つまみを回します。

設定値: -3dB、0dB、3dB、6dB、9dB、12dB

ヒント

SP-404 の最大同時発音数は 12 音です。同時発音数が 1～12 音の間では、音量に大きな差が生じます。

同時に発音させるパッドが少ないときや、SP-404 を DJ ミキサーなどに接続してエフェクターとして使用するときは、この内部処理レベルを大きくすると、より大きな音量で出力することができます。

同時に発音させるパッドが多くて音が歪むときは、この内部処理レベルを小さくします。

メモ

電源投入時は、必ず 0dB になります。

第 8 章 具体的な応用例

パターン・シーケンサーを使ってリズム・パターンを作る

工場出荷時に割り当てられているサンプルを使って、BPM = 102、2小節のリズム・パターンを作ってみましょう。
サンプル・バンク A に割り当てられている以下のサンプルを使います。

- パッド 9：キック
- パッド 10：スネア
- パッド 12：ハイハット
- パッド 4：ボイス

1. [PATTERN SELECT] を押して、ボタンを点灯させます。
2. [REC] を押して、ボタンを点灯させます。
パターンが割り当てられていないパッドがすべて点滅します。
3. BANK [A] ~ [F/J] のいずれかを押して、録音したいパターン・バンクを選びます。

メモ

メモリー・カードが挿入されていないときは、パターン・バンク C ~ J を選ぶことはできません。

4. 録音するパターンを割り当てたいパッドを押します。
押したパッドが点灯し、他のパッドは消灯します。
[REC] が点滅し、メトロノームが鳴り始めます。
5. メトロノームのレベルを調節します。
[START/END/LEVEL] を押してボタンを点灯させ、CTRL 3 (LEVEL) つまみを回して適当な音量に設定します。
6. パターンのテンポを 102 に設定します。
[TIME/BPM] を押してボタンを点灯させ、CTRL 2 (BPM) つまみを回してディスプレイに“102”を表示させます。
7. パターンの長さを 2 小節に設定します。
[LENGTH] を押してボタンを点灯させ、CTRL 3 つまみを回してディスプレイに“2”を表示させます。
8. クオンタイズを 4 分音符に設定します。
[QUANTIZE] を押してボタンを点灯させ、CTRL 3 つまみを回してディスプレイに“4”を表示させます。
9. [REC] を押して、録音を始めます。
録音が始まるまでに、1 小節のカウントが入ります。

ヒント

もう一度 [REC] を押してボタンを点滅させると、ディスプレイに“rEH”と表示され、リハーサル状態になります。このとき、パッドを押すとサンプルの音が鳴りますが、録音されません。さらにもう一度 [REC] を押してボタンを点灯させると、リハーサル状態が解除され、通常の録音状態に戻ります。次に録音するサンプルの音を確認するのに便利です。

10. メトロノームに合わせて、パッド 9 (キック) を 1 拍目、3 拍目に入力します。

QUANTIZE = 4



2 小節の録音が終わったら自動的に先頭に戻ります。
今録音したキックの音が正確なタイミングで再生されます。

11. 次の周で、パッド 10 (スネア) を 2 拍目、4 拍目に入力します。

QUANTIZE = 4



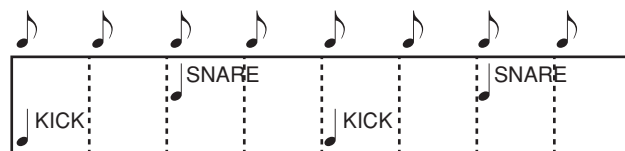
12. いったんクオンタイズを 8 分音符に設定します。

[QUANTIZE] を押してボタンを点灯させ、CTRL 3 つまみを回してディスプレイに“8”を表示させます。
もう一度 [QUANTIZE] を押して、ボタンを消灯させます。

13. 次の周の頭から、パッド 12 (ハイハット) を 8 分音符間隔で入力します。

次の周で、ハイハットの音が正確なタイミングで再生されることを確認します。

QUANTIZE = 8

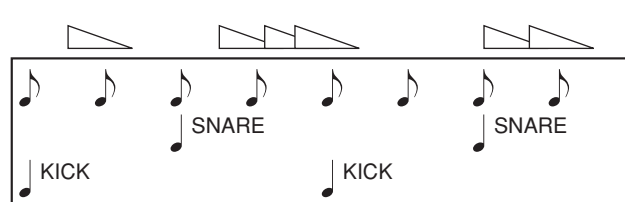


14. クオンタイズをオフにします。

[QUANTIZE] を押してボタンを点灯させ、CTRL 3 つまみを回してディスプレイに“OFF”を表示させます。
もう一度 [QUANTIZE] を押して、ボタンを消灯させます。

15. 最後に、好きなタイミングでパッド 4 (ボイス) を入力します。
ボイスが、演奏したタイミングそのままに録音されます。

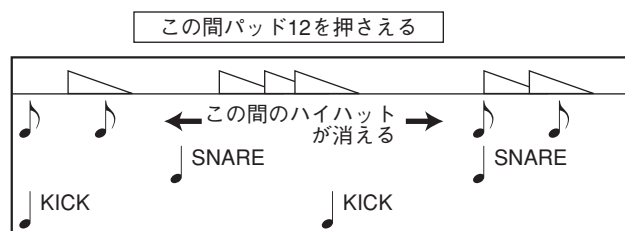
QUANTIZE = OFF



メモ

間違った入力を消去したい場合は、録音中に [DEL] を押してボタンを点灯させ、消去したいサンプルの割り当てられているパッドを押します。パッドを押している間、そのパッドのサンプル音が消去され、パッドから指を離すと消去が終了します。

[DEL] 点灯



16. 録音を終了するときは、[CANCEL] を押します。

ディスプレイのドットがしばらく点滅すると終了します。

ご注意!

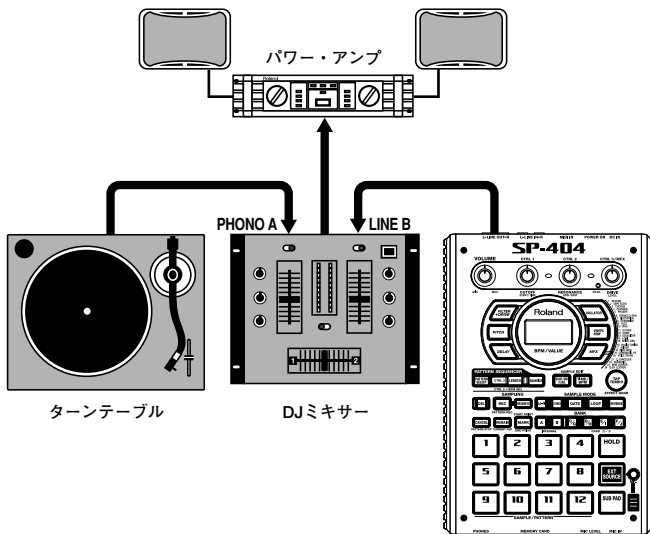
ドットが点滅している間は、絶対に電源を切らないでください。

ターンテーブルと組み合わせて使う

ターンテーブルの音に合わせてサンプルを演奏する

ターンテーブルの音を鳴らしながら、同時に SP-404 のサンプルを合わせて演奏します。

接続

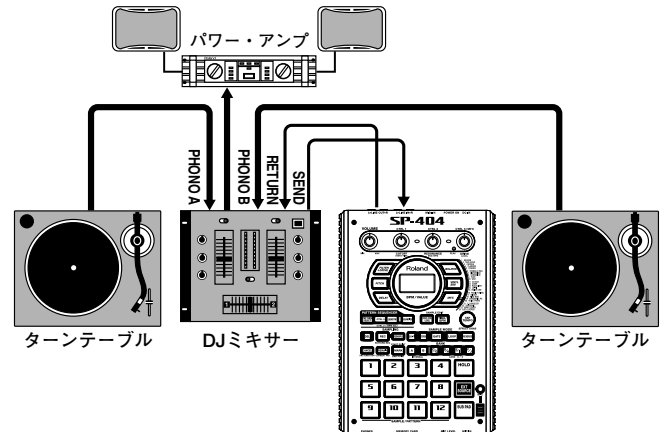


1. DJ ミキサーのクロス・フェーダーをターンテーブル側に合わせます。
ターンテーブルをスタートさせます。
2. SP-404 のパッドを押して音を鳴らしながら、DJ ミキサーで SP-404 の音をモニターします。
このとき、DJ ミキサーのトリムつまみを操作して、音量を調節します。
3. DJ ミキサーのクロス・フェーダーを中央に合わせます。
4. ターンテーブルの音に合わせて、SP-404 のパッドを押します。

ターンテーブルの音にエフェクトをかける

ターンテーブルなど、DJ ミキサーを通った音に SP-404 のエフェクトをかけます。

接続



1. DJ ミキサーのセンド・レベルとリターン・レベルを下げておきます。
2. ターンテーブルをスタートさせます。
3. SP-404 の [EXT SOURCE] を押してボタンを点灯させます。
4. SP-404 のエフェクト・ボタンのいずれかを押して、ボタンを点灯させます。
5. SP-404 の音量を上げます。
6. DJ ミキサーのセンド・レベルとリターン・レベルを徐々に上げて、音量を調節します。
7. CTRL 1 ~ 3 つまみを回して、エフェクトに変化を付けます。

ヒント

入力音に対して BPM (テンポ) を設定するには…

1. サンプルやパターンを鳴らしていない状態で、[EXT SOURCE] を押してボタンを点灯させます。
2. [TIME/BPM] を押してボタンを点灯させます。
3. CTRL 2 つまみを回すか [TAP TEMPO] を複数回押し、BPM を調節します。
4. もう一度 [TIME/BPM] を押してボタンを消灯させます。

操作早見表

目的	操作
サンプルを鳴らす	パッド [1] ~ [12]
外部入力音を鳴らす	[EXT SOURCE]
外部入力のモノラル/ステレオ設定	[EXT SOURCE] → [STEREO]
サンプリング	[REC] → パッド [1] ~ [12] → [REC]
オート・サンプリングの設定	[CANCEL] + [REC] → CTRL 3 (LEVEL) つまみ → [REC]
オート・サンプリングの解除	[CANCEL] + [REC] → CTRL 3 (LEVEL) つまみを左に回しきる → [REC]
リサンプリング	[RESAMPLE] → CTRL 3 (LEVEL) つまみ → [REC] → パッド [1] ~ [12] → [REC] → パッド [1] ~ [12]
サンプルの個別消去	[DEL] → パッド [1] ~ [12] → [DEL]
サンプルの一括消去	[CANCEL] + [DEL] → BANK [A] ~ [F/J] → [DEL]
サンプルの音量設定	パッド [1] ~ [12] → [START/END/LEVEL] → CTRL 3 (LEVEL) つまみ
スタート・ポイントの設定	パッド [1] ~ [12] → [MARK] → もう一度パッド [1] ~ [12] を押して発音を止める
エンド・ポイントの設定	[MARK] + パッド [1] ~ [12] → [MARK]
スタート/エンド・ポイント設定	パッド [1] ~ [12] → [MARK] → [MARK]
スタート/エンド・ポイント修正	パッド [1] ~ [12] → [START/END/LEVEL] → CTRL 1 (START) つまみ / CTRL 2 (END) つまみ
タイム・モディファイ設定	パッド [1] ~ [12] → [TIME/BPM] → CTRL 1 (TIME) つまみ
パッド間でサンプルを入れ替え	[DEL] + [REC] → 入れ替え元パッドの指定 → 入れ替え先パッドの指定 → [REC]
バックアップ・セーブ	[CANCEL] + BANK [C/G] ~ [F/J] → パッド [1] ~ [12] でエリア指定 → [REC]
バックアップ・ロード	[CANCEL] + BANK [A] または [B] → パッド [1] ~ [12] でエリア指定 → [REC]
サンプリング可能時間の表示	[REMAIN]
MFX タイプ選択	[MFX] を押しながら CTRL 3/MFX つまみを操作 (MFX タイプ 1~24) または [MFX] + パッド [1] ~ [12] (MFX タイプ 1~12) [MFX] + [VINYL SIM] + パッド [1] ~ [12] (MFX タイプ 13~24)
エフェクト・センドの指定	[REMAIN] + パッド [1] ~ [12]
全サンプルのエフェクト・センド	[REMAIN] + エフェクト・ボタン
エフェクト・グラフ	[TAP TEMPO] + エフェクト・ボタン
パターンの再生	[PATTERN SELECT] → パッド [1] ~ [12]
パターンの停止 (1)	[CANCEL]
パターンの停止 (2)	[PATTERN SELECT] → 再生中のパターンのパッド
パターンの録音	[PATTERN SELECT] → [REC] → パッド [1] ~ [12] → [CANCEL]
パターンのテンポ設定 (1)	[PATTERN SELECT] → [TIME/BPM] → CTRL 2 (BPM) つまみ
パターンのテンポ設定 (2)	[PATTERN SELECT] → [TAP TEMPO] を複数回叩く
クオンタイズ設定	パターンの録音中 / 録音スタンバイ中に [QUANTIZE] → CTRL 3 つまみ
パターン・レングス設定	録音スタンバイ中に [LENGTH] → CTRL 3 つまみ
メトロノームの音量設定	パターンの録音中 / 録音スタンバイ中に [START/END/LEVEL] → CTRL 3 (LEVEL) つまみ
パターンの録音リハーサル	パターンの録音中に [REC]
演奏データの消去	パターンの録音中に [DEL] → パッド [1] ~ [12]
パッド間でパターンを入れ替え	[PATTERN SELECT] → [DEL] + [REC] → パッド [1] ~ [12] → パッド [1] ~ [12] → [REC]
パターンの個別消去	[PATTERN SELECT] → [DEL] → パッド [1] ~ [12] → [DEL]
パターンの一括消去	[PATTERN SELECT] → [CANCEL] + [DEL] → BANK [A] ~ [F/J] → [DEL]
MIDI チャンネルの設定	パッド [1] ~ [12] + 電源オン (Ch1~12) [HOLD] + 電源オン (Ch13) [EXT SOURCE] + 電源オン (Ch14) [SUB PAD] + 電源オン (Ch15)
MIDI 同期モードの設定	[TIME/BPM] + 電源オン → CTRL 1 (TIME) つまみ → [TIME/BPM]
本体メモリーの初期化	[CANCEL] + [DEL] + [REMAIN] + 電源オン
プロテクト解除	[CANCEL] + 電源オン
バンク A ~ J のプロテクト	[REMAIN] + 電源オン
バンク A のプロテクト	[REMAIN] + BANK [A] + 電源オン
メモリー・カードのフォーマット	[CANCEL] + [REMAIN] → BANK [C/G] ~ [F/J] → [DEL]
エフェクト・リミット・モード	[CANCEL] + [MFX]
センド/リターン・モード	[CANCEL] + [VINYL SIM]
内部処理レベルの設定	[CANCEL] + [START/END/LEVEL] + CTRL 3 つまみ

故障かな？と思ったら

ここでは、正しく動作しないときのチェック・ポイントと対処方法をまとめています。症状に合わせて確認してください。

音を鳴らすときのトラブル

音が出ない／音量が小さい

**SP-404 や接続機器の電源は入っていますか？
SP-404 と外部機器が正しく接続されていますか？**

接続を確認してください。(P.10)

**オーディオ・ケーブルが断線していませんか？
抵抗入りのオーディオ・ケーブルを使用していませんか？**

抵抗の入っていない接続ケーブル（ローランド：PCS シリーズなど）をご使用ください。

接続しているアンプやミキサーのボリュームが下がっていませんか？

適正なレベルに調節してください。

SP-404 のボリュームが下がっていませんか？

適正なレベルに調節してください。

ヘッドホンから音が出ていますか？

音が出るようであれば、接続コードが断線していたり、接続しているアンプやミキサーに原因があります。接続機器や接続のしかたを確認してください。(P.10)

メモリー・カードをお使いの場合、メモリー・カードが正しく挿入されていますか？

メモリー・カードを確認してください。(P.11)

サンプル音を鳴らそうとしている場合、サンプルのパッドが点灯していますか？

サンプルのパッドを押すと点灯し、サンプルが鳴ります。押しても点灯しない場合は、そのパッドにサンプルが割り当てられていません。

特定のサンプルだけ音が出ない

サンプルのレベルが下がっていませんか？

サンプルのレベルを調節してください。(P.29)

エフェクトのレベルが下がっていませんか？

エフェクトの種類によっては、コントロールつまみでレベルを調節できるものがあります。エフェクトの種類とコントロールつまみの対応については、P.20 をご覧ください。

LINE IN に接続した機器の音が出ない／小さい

[EXT SOURCE] は点灯していますか？

ライン入力の音を鳴らすためには、[EXT SOURCE] を押してパッドを点灯させる必要があります。

外部入力のレベルが下がって設定されていませんか？

CTRL 3 つまみを回して、適正なレベルに調節してください。(P.17)

LINE IN に接続された機器のボリュームが下がっていませんか？

適正なレベルに調節してください。

オーディオ・ケーブルは正しく接続されていますか？

接続を確認してください。(P.10)

オーディオ・ケーブルは断線していませんか？

抵抗入りのオーディオ・ケーブルを使用していませんか？

抵抗の入っていない接続ケーブル（ローランド：PCS シリーズなど）をご使用ください。

マイクの音が出ない／小さい

[EXT SOURCE] は点灯していますか？

マイク入力の音を鳴らすためには、[EXT SOURCE] を押してパッドを点灯させる必要があります。

[MIC] は点灯していますか？

マイク入力の音を鳴らすためには、[MIC] を押してボタンを点灯させる必要があります。

外部入力のレベルが下がっていませんか？

CTRL 3 つまみを回して、適正なレベルに調節してください。(P.17)

MIC IN に接続されたマイクまたは SP-404 の内蔵マイクのレベルが下がっていませんか？

MIC LEVEL つまみを回して、適正なレベルに調節してください。

マイク・ケーブルは正しく接続されていますか？

接続を確認してください。(P.10)

マイク・ケーブルは断線していませんか？

サンプリングできない

メモリーの容量が不足していませんか？

不足している場合、サンプリングしようとするとき“FUL” (Memory Full) と表示されます。不要なサンプルを消去して、空き容量を増やしてください。(P.27)

サンプル・バンク C～J にサンプリングする場合、メモリー・カードは正しく挿入されていますか？

メモリー・カードを確認してください。(P.11)

サンプル・バンク C～J にサンプリングする場合、メモリー・カードは SP-404 でフォーマットされていますか？

メモリー・カードを SP-404 でフォーマットしてください。(P.38)

すべてのパッドにサンプルが割り当てられていませんか？

空いているパッドがないとサンプリングができません。不要なサンプルを消去して、パッドに空きを作ってください。(P.27)

[PATTERN SELECT] が点灯していませんか？

[PATTERN SELECT] が点灯しているときはパターンを選択動作になり、サンプリングはできません。

[PATTERN SELECT] を押して、ボタンを消灯させてください。

[DEL] が点灯／点滅していませんか？

[DEL] が点灯／点滅中はサンプルの消去動作となり、サンプリングはできません。

サンプリングした音に雑音や歪みが多い

入力レベルは適切ですか？

入力レベルが高すぎるとサンプリングした音が歪み、逆にレベルが低すぎると雑音が目立つようになります。PEAK インジケーターがときどき点灯するぐらいにレベルを調節してください。

エフェクトの設定は適切ですか？

エフェクトの種類によっては、元のサンプルよりもレベルを大きくしたり、音そのものを歪ませる効果を持つものがあります。また、ノイズを強調する効果を持つものもあります。

一度エフェクトをオフにして、元のサンプル自体に雑音や歪みがないことを確認してからエフェクトの設定を適切なものに変更してください。

同時に複数のサンプルを鳴らしていませんか？

1つ1つのサンプルのレベルが適切であっても同時に複数のサンプルを鳴らした場合は、全体のレベルが上がりすぎて歪むことがあります。それぞれのサンプルのレベルを下げて、歪まないようにしてください。

メモリーに関するトラブル

本体（インターナル）メモリーにデータが正しく保存されていない

本体メモリーにデータを書き込んでいる途中（ディスプレイのドットが点滅中）に電源を切ったことが考えられます。失われたデータは復元できません。

この状態では、本体メモリー全体のデータが壊れている可能性があります。このまま使い続けるとさらに異常な動作をする恐れがありますので、本体メモリーを初期化してください。(P.43)

※ 初期化をすると、本体メモリーのデータはすべて失われます。

メモリー・カードにデータが正しく保存されていない

メモリー・カードにデータを書き込んでいる途中（ディスプレイのドットが点滅中）に電源を切ったことが考えられます。失われたデータは復元できません。

この状態では、メモリー・カード全体のデータが壊れている可能性があります。このまま使い続けるとさらに異常な動作をする恐れがありますので、メモリー・カードをフォーマットしてください。(P.38)

※ フォーマットすると、メモリー・カードのデータはすべて失われます。

メモリー・カードを挿入しても認識されない

メモリー・カードのデータが選べない

メモリー・カードは正しく挿入されていますか？

メモリー・カードを確認してください。(P.11)

メモリー・カードの種類は合っていますか？

メモリー・カードには、コンパクトフラッシュ 32MB～1GB をご使用ください。それ以外はご使用になれません。(P.50)

メモリー・カードは正しくフォーマットされていますか？

SP-404 でフォーマットしたメモリー・カードしか使用できません。メモリー・カードをフォーマットしてください。(P.38)

MIDI / 同期のトラブル

外部 MIDI 機器からサンプルを鳴らすことができない

外部 MIDI 機器の電源は入っていますか？

MIDI ケーブルは正しく接続されていますか？

接続を確認してください。

MIDI ケーブルは断線していませんか？

MIDI チャンネルは合っていますか？

SP-404 と外部 MIDI 機器の MIDI チャンネルを合わせてください。
(P.41)

外部 MIDI 機器はノート情報を送信するように設定されていますか？

外部 MIDI 機器の設定を確認してください。

外部 MIDI 機器のテンポにパターン・シーケンサーが同期しない

パターン・シーケンサーが同期するように正しく設定されていますか？

設定を確認してください。(P.41)

外部 MIDI 機器が MIDI クロックを送信するように設定されていますか？

機器によっては、MIDI クロック送信の設定（オン／オフ）を持つものがあります。また、外部シーケンサーなどの機器によっては、その機器が再生中の場合のみ MIDI クロックを送信するようなものもあります。

外部 MIDI 機器のテンポが、SP-404 の同期可能なテンポの範囲を超えていませんか？

SP-404 で同期可能なテンポの範囲は 40 ～ 200 です。それを超えたテンポでは、正しく同期しないことがあります。

メッセージ一覧

メッセージ	説明
A.on (Bank A protect on)	バンク A にプロテクトを設定します。
AiF (AIFF)	オーディオ・ファイルを出力するとき、AIFF で出力します。
bdL (Backup Delete)	バックアップ・データをデリートします。
C-1、C-2、C-3 (CTRL 1～3)	次に選ぶエフェクトのパラメーターをあらかじめ設定します。
CHG (Change)	サンプルまたはパターンを 2 つのパッド間で入れ替えます。
dAL (Delete All)	バンク内のすべてのサンプルまたはパターンを消去（デリート）します。
dEL (Delete)	サンプルまたはパターンを消去（デリート）します。
Edt (Edit)	サンプルをエディット中です。
EJC (Eject)	メモリー・カードが抜かれたので、処理できません。 ※電源が入っているときは、カードを抜かないでください。
EMP (Empty)	デリートするサンプル、パターン、バックアップ・データがありません。 バックアップ・ロードするデータがありません。 インポートする WAV または AIFF がありません。 WAV または AIFF でエクスポートするデータがありません。
Err (Error)	本体（インターナル）メモリーに不良データが発見されたため、修復または消去しました。
ErS (Erase)	パターン内のデータを消去します。
EXP (File Export)	サンプルを WAV あるいは AIFF で出力（エクスポート）します。
FiL (File I/E)	WAV あるいは AIFF を入出力します。
FMt (Format)	メモリー・カードをフォーマットします。
FUL (Memory Full)	メモリーが不足しているため、処理できませんでした。
iMP (File Import)	WAV あるいは AIFF を入力（インポート）します。
ini (Initialize)	すべてのデータを初期化します。
L.oF (Limit mode off)	エフェクト・リミット・モードをオフにします。
L.on (Limit mode on)	エフェクト・リミット・モードをオンにします。
LEd (LED)	ディスプレイ・イルミネーションの点滅の速さを設定します。
LEV (Level)	リサンプリングする音量（レベル）を設定します。
Lo (Battery Low)	電池容量が無くなり、すべての操作ができなくなります。すぐに電池を交換してください。
Lod (Backup Load)	バックアップ・データをロードします。
Mid (MIDI)	MIDI クロックに同期します。
P.oF (Protect off)	プロテクトを解除します。
P.on (All data protect on)	すべてのバンクにプロテクトを設定します。
Prt (Protected)	プロテクトが設定されているので操作できません。

メッセージ	説明
Ptn (Pattern)	パターンの再生や録音を行います。
rdy (Ready)	オート・サンプリング時の入力信号待ちです。
rEC (Recording)	サンプリングします。リサンプリングをします。パターンを録音します。
rEh (Rehearsal)	パターン録音時のリハーサル中です。
S.oF (Send/Return mode off)	SEND/リターン・モードをオフにします。
S.on (Send/Return mode on)	SEND/リターン・モードをオンにします。
SAV (Backup Save)	バックアップ・データをセーブします。
trC (Truncate)	サンプルのトランケートを行います。
UnS (Unsupported format)	SP-404 に適合しない形式の WAV または AIFF がありませんので、処理を中断しました。
WAV	オーディオ・ファイルを出力するとき、WAV で出力します。

推奨するメモリー・カードについて

SP-404 は 32MB ~ 1GB のコンパクトフラッシュ・カード (タイプ I) に対応しています。

※ マイクロドライブなどタイプ II のカードは使用できません。

※ 上記の範囲でも、カード固有の設計仕様や使用環境などの違いにより、使用できない場合があります。上記範囲のカードでの動作を、すべて保証するものではありません。

※ 最新の動作確認情報はローランド・サポート・ページ <http://www.roland.co.jp/support/> の「製品サポート (SP-404)」でご案内しています。

MIDI インプリメンテーション

Model: SP-404
Date: July 12, 2005
Version: 1.02

1. 受信データ

■チャンネル・ボイス・メッセージ

※ ノート・ナンバーとパッドの関係は、『SP-404 の MIDI 概要』(P.41) をご覧ください。

●ノート・オフ

ステータス	第2バイト	第3バイト
8nH	kkH	vvH
9nH	kkH	00H

n = MIDI チャンネル・ナンバー: 0H - FH (ch.1 - ch.16)
kk = ノート・ナンバー: 2EH - 76H (46 - 118)
vv = ノート・オフ・ベロシティ: 00H - 7FH (0 - 127)

●ノート・オン

ステータス	第2バイト	第3バイト
9nH	kkH	vvH

n = MIDI チャンネル・ナンバー: 0H - FH (ch.1 - ch.16)
kk = ノート・ナンバー: 2EH - 76H (46 - 118)
vv = ノート・オン・ベロシティ: 01H - 7FH (1 - 127)

■チャンネル・モード・メッセージ

※ リアルタイム・レコーディング中に以下のチャンネル・モード・メッセージを受信すると、該当チャンネルのオンになっているノートに対してノート・オフを生成し、その生成したノート・オフを記憶します。

●オール・サウンド・オフ (コントローラー・ナンバー 120)

ステータス	第2バイト	第3バイト
BnH	78H	00H

n = MIDI チャンネル・ナンバー: 0H - FH (ch.1 - ch.16)

※ オール・サウンド・オフを受信したときは、チャンネルに関係なくすべての発音を消音します。

■システム・コモン・メッセージ

●ソング・ポジション・ポインター

ステータス	第2バイト	第3バイト
F2H	mmH	llH

(mm ll : 00 00H - 7F 7FH (0 - 16383))

※ このメッセージは、Sync Mode が AUTO のとき受信します。

■システム・リアルタイム・メッセージ

●タイミング・クロック

ステータス
F8H

※ このメッセージは、Sync Mode が AUTO または TEMPO のとき受信します。

●スタート

ステータス
FAH

※ このメッセージは、Sync Mode が AUTO のとき受信します。

●コンティニュー

ステータス
FBH

※ このメッセージは、Sync Mode が AUTO のとき受信します。

●ストップ

ステータス
FCH

※ このメッセージは、Sync Mode が AUTO のとき受信します。

●アクティブ・センシング

ステータス
FEH

Model SP-404

Date : July 12, 2005

MIDIインプリメンテーション・チャート

Version : 1.02

ファンクション...	送 信	受 信	備 考
ベーシック電源ON時 チャンネル 設定可能	× ×	1~16 1~16	
モード 電源ON時 メッセージ 代用	× × *****	モード3 ×	
ノート ナンバー : 音域	× *****	46~118 46~118	
ベロシティ ノート・オン ノート・オフ	× ×	○ ×	
アフター キー別 タッチ チャンネル別	× ×	× ×	
ピッチ・ベンド	×	×	
コントロール チェンジ	×	×	
プログラム チェンジ : 設定可能範囲	× *****	×	
エクスクルーシブ	×	×	
: ソング・ポジション コモン : ソング・セレクト : チューン	× × ×	○ × ×	*1
リアル : クロック タイム : コマンド	× ×	○ ○	*2 *1
その他 : オール・サウンド・オフ : リセット・オール・コントローラー : ローカルON/OFF : オール・ノート・オフ : アクティブ・センシング : システム・リセット	× × × × × × ×	○ × × × ○ ○ ×	*3
備考	*1 Sync ModeがAUTOのとき受信します。 *2 Sync ModeがAUTOまたはTEMPOのとき受信します。 *3 チャンネルに関係なくすべての発音を消音します。		

モード1: オムニ・オン、ポリ
モード3: オムニ・オフ、ポリ

モード2: オムニ・オン、モノ
モード4: オムニ・オフ、モノ

○: あり
X: なし

主な仕様

SP-404：サンプラー

最大同時発音数

12音

インターナル・メモリー

サンプル：24（12サンプル×2バンク）

※プリロード・サンプル分も含む

パターン：24（12パターン×2バンク）

※プリロード・パターン分も含む

メモリー・カード（コンパクトフラッシュ）

サンプル：96（12サンプル×8バンク）

パターン：96（12パターン×8バンク）

最大サンプリング時間（モノ）

本体メモリー（プリロード・サンプル分も含む）

スタンダード	ローファイ
約5分	約11分

メモリー・カード（コンパクトフラッシュ）

容量	スタンダード	ローファイ
32MB	約12分	約24分
64MB	約24分	約48分
128MB	約48分	約96分
256MB	約96分	約193分
512MB	約193分	約386分
1GB	約386分	約772分

サンプリング周波数

44.1kHz

データ・フォーマット

SP-404オリジナル・フォーマット

（WAV/AIFFインポート・エクスポート可能）

サンプリング・モード

スタンダード、ローファイ

パターン・シーケンサー

最大記録音数：

インターナル・メモリー：約8,000音

※プリロード・パターン分も含む

メモリー・カード（コンパクトフラッシュ）：約8,000音

分解能：96ティック／4分音符

パターン小節長：1～99小節

レコーディング方法：リアルタイム・ループ・レコーディング
（クォンタイズ可）

エフェクト

29種類

信号処理

AD変換：24ビット

DA変換：24ビット

ディスプレイ

7セグメント3桁（LED）

内蔵マイク

モノ×1

接続端子

ライン・インプット・ジャック（L、R）（RCAピン・タイプ）

ライン・アウトプット・ジャック（L、R）（RCAピン・タイプ）

ヘッドホン・ジャック（ステレオ標準タイプ）

マイク・ジャック（標準タイプ）

MIDI IN コネクター

ACアダプター・ジャック

メモリー・カード・スロット（コンパクトフラッシュ）

電源

DC9V（単3乾電池×6又はACアダプター）

連続使用時の電池の寿命

アルカリ電池：約6時間

※使用状態によって異なります。

消費電流

300mA

外形寸法

177.6（幅）×256.7（奥行）×72.1（高さ）mm

質量

1.3kg（乾電池を除く）

付属品

ACアダプター

取扱説明書

保証書

ローランドユーザー登録カード

※製品の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

索引

A

A.on 43
AC アダプター 10
AiF 39
AIFF 38 ~ 39
Aut 41 ~ 42
Auto Sync 41

B

BANK 8, 16, 34
bdL 40
BPM 14, 25, 31, 33 ~ 35, 44 ~ 45

C

C-1 19
C-2 19
C-3 19
CANCEL 8, 13, 29, 34 ~ 35, 44
CARD LOCK 11
CHG 28, 37
CTRL 7
CURRENT PAD 17 ~ 19

D

dAL 27, 37
DC IN 9 ~ 10
DEL 8, 15, 27, 32, 36, 44
dEL 15, 27, 36
DJ ミキサー 19, 45

E

EFFECT GRAB 18
EMP 27, 36, 38
Empty 38
END 32
ErS 36
EXP 39
EXT SOURCE 8, 17, 45

F

FIL 38 ~ 39
File Export 39
File Import 38
FMt 16, 25, 38
FuL 15, 28, 37

G

GATE 8, 30

H

HOLD 8, 16, 36, 42

I

iMP 38
ini 43

L

L.oF 19
L.on 19
LEd 42
LENGTH 8, 35, 44
LEV 26
LEVEL 15, 17, 24, 26 ~ 27, 29, 35, 44
LINE IN 9 ~ 10, 17, 23
LINE OUT 9 ~ 10
Lo 10, 42
Lod 40
LO-FI 8, 23 ~ 24, 27
LOOP 8, 29

M

MARK 8, 25, 31 ~ 32
MEMORY CARD 9
MFX 18, 20
MIC 8, 17, 24
MIC IN 9 ~ 10, 17, 24
MIC LEVEL 9, 17, 24
Mid 34
MIDI 41
MIDI IN 9, 41
MIDI チャンネル 41
MIDI 同期モード 41 ~ 42

P

P.oF 43
P.on 43
Pad Base Ch 41
PATTERN SELECT
..... 8, 13 ~ 14, 34, 36 ~ 37, 42, 44
PATTERN STOP 13, 34
PEAK 7, 15, 17, 24, 26 ~ 27
PHONES 9 ~ 10
POWER 9 ~ 10
Protected 27, 36 ~ 37, 39 ~ 40
Prt 27, 36 ~ 37, 39 ~ 40, 43
Ptn 13, 33 ~ 34, 36 ~ 37

Q

QUANTIZE 8, 35, 44

R

rdY 26
REC 8, 14, 23 ~ 27, 34, 44
rEC 26
rEH 35, 44
REMAIN 8, 17 ~ 19, 28, 42
RESAMPLE 8, 26
RETURN 19
REVERSE 8, 30

S

S.oF	19
S.on	19
SAV	40
SECURITY LOCK	9
SEND	19
START	32
START/END/LEVEL	8, 17, 26, 29, 32, 35, 44
STEREO	8, 17, 23 ~ 24, 27
SUB PAD	8, 13, 34

T

TAP TEMPO	8, 18, 25, 31, 34 ~ 35, 45
Tempo Sync	41
TIME	33
TIME/BPM	8, 14, 25, 31, 33 ~ 35, 44 ~ 45
tMp	41
trC	32

U

UnS	38
Unsupported	38

V

VOLUME	7
--------------	---

W

WAV	38 ~ 39
-----------	---------

い

入れ替え	
サンプル	28
パターン	37
インポート	38

え

エクスターナル・ソース	17
エクスポート	39
エフェクト	7, 12, 18 ~ 20, 26, 45
エフェクト・グラブ	18
エフェクト・リミット・モード	19
エンド・ポイント	25, 30 ~ 32

お

オーディオ・ファイル	38 ~ 39
オート・サンプリング	26
オーバーダビング	34
音量	15, 17, 29, 35, 44

か

外部 MIDI シーケンサー	42
カウント	26, 35, 44
カレント・エフェクト	19
カレント・パッド	16, 18

く

クォンタイズ	35, 44
グラント	9

け

ゲート再生	29
-------------	----

こ

工場出荷時	12
-------------	----

さ

最大同時発音数	16
サブ・パッド	8
サンプリング	14, 23
CD	23
エフェクト	26
カウント	26
時間	23
自動	26
テンポ	25
残り時間	28
マイク	24
メモリー・カード	25
サンプリング開始レベル	26
サンプリング・グレード	23 ~ 24, 27
サンプリング・レベル	24, 27
サンプル	12, 16, 18, 28 ~ 29
サンプル・バンク	12, 16

し

消去	
演奏データ	36
サンプル	15, 27
パターン	36 ~ 37
初期化	38, 43

す

スタート・ポイント	30 ~ 32
ステレオ	17, 23 ~ 24, 27

せ

接地	9
センド/リターン・モード	19
センド・レベル	45

た

ターンテーブル	34, 45
タイム・モディファイ	33

て

ディスプレイ	7
ディスプレイ・イルミネーション	7, 42
電源	10
電池	10, 42
テンポ	14, 25, 31, 33 ~ 35, 44 ~ 45

- と**
同期 41～42
盗難防止 11
トランケート 32
トリガー再生 29
- な**
内蔵マイク 8, 17, 24
- の**
ノート・ナンバー 41
残り時間 28
残り容量 42
- は**
バージョン情報 43
パターン 13～14, 34, 44
パターンの指定 42
パターンの長さ 35, 44
パターン・バンク 13, 34
バックアップ・セーブ 40
バックアップ・データ 40
バックアップ・デリート 40
バックアップ・ロード 40
パッド 8
パッド・ベース・チャンネル 41
パラメーター 19
バンク 16, 25, 34
- ふ**
フォーマット 16, 25, 38
プロテクト 27, 36～37, 39～40, 43
- へ**
ヘッドホン 10
- ほ**
ホールド 16
本体メモリー 16, 23, 27～28, 34, 37, 43
- ま**
マーカー 30
マイク 10, 17, 24
マルチエフェクト 18
- め**
メトロノーム 35, 44
メモリー・カード 11～12, 16, 23, 25, 27～28, 34,
37～38
メモリー・カード・カバー 11
- ら**
ライン 17
- り**
リサンプリング 26
リズム・パターン 44
リターン・レベル 45
リハーサル 35, 44
リバース再生 30
- る**
ルート 38～39
ループ再生 29
ループ・レコーディング 34
- ろ**
ローファイ 23～24, 27
録音 34, 44
- わ**
ワン・ショット再生 29

お問い合わせの窓口

- ローランド製品全般に関するお問い合わせ先

お客様相談センター **050-3101-2555**

電話受付時間： 月曜日～土曜日 10:00～17:00（年末年始を除く）

※IP電話からおかけになって繋がらない場合には、お手数ですが、電話番号の前に“0000”（ゼロ4回）をつけてNTTの一般回線からおかけいただくか、携帯電話をご利用ください。

※上記窓口の名称、電話番号等は、予告なく変更することがありますのでご了承ください。

- 修理に関するお問い合わせ先

商品をお求めの販売店か、保証書封筒裏面にある「修理の窓口」（サービスの窓口）に記載のサービスステーションへご相談ください。

- 最新サポート情報

製品情報、イベント／キャンペーン情報、サポートに関する情報など

ローランド・ホームページ <http://www.roland.co.jp/>

’07.04.01 現在（Roland）

- 取扱説明書の英語版（有料）をご希望の方は、販売店にお問い合わせください。

If you should require an English Owner’s Manual (at a modest fee), please contact an authorized Roland distributor.

